

# 川越市文化財保護年報

平成 29 年度

川 越 市 教 育 委 員 会  
文 化 財 保 護 課

# 序

文化財とは、「我が国の長い歴史の中で生まれ、育まれ、今日まで守り伝えられてきた貴重な財産」のことです。そして、それぞれの土地における歴史・伝統・文化などの理解のために欠くことのできないものであると同時に、将来の文化を創り出す礎となる貴重なものでもあります。

川越市には、この文化財が数多く存在し、文化財保護法に定義された文化財のうち文化的景観・無形文化財を除く、有形文化財・民俗文化財・記念物・伝統的建造物群が存在しております。また、埋蔵文化財も広く存在しています。

すなわち、歴史上・芸術上・学術上において価値の高い文化財がその指定の有無にかかわらず存在しているといえます。これらの貴重な文化財を後世に引き継いでいくために、川越市教育委員会では文化財の保存と活用を推進し、各種の事業に取り組んでいます。

このたび刊行する「川越市文化財保護年報」は、平成 29 年度に川越市教育委員会が文化財に関しておこなった事業について、写真や図を用いてわかりやすく紹介しています。

この年報を多くの皆様にご活用いただき、文化財をより身近に感じていただければ幸いです。

平成 30 年 10 月

川越市教育委員会教育総務部  
文化財保護課

# 目 次

<b>1 文化財保護課の目標と決算</b>	
1-1 目標	1
1-2 平成29年度決算及び前年度比較	1
<b>2 教育委員会事務局組織と文化財保護課の主な事務</b>	1
<b>3 附属機関</b>	
3-1 文化財保護審議会	2
3-2 川越氷川祭の山車行事山車等修理検討委員会	3
3-3 河越館跡整備検討委員会	4
3-4 山王塚古墳調査検討委員会	4
3-5 伝統的建造物群保存地区保存審議会	5
<b>4 新指定文化財</b>	
4-1 県指定文化財	6
(1) 黒地小花模様小紋帷子	6
(2) 白綾地松竹鶴亀宝尽模様産衣	6
<b>5 河越館跡史跡整備事業</b>	
5-1 史跡の概要	7
5-2 保存整備の経過	8
5-3 史跡整備に係る主な事業経過	9
5-4 公有化の推移	9
5-5 河越館跡活用事業	9
(1) 河越流鏑馬	9
(2) 行為許可	10
<b>6 川越氷川祭の山車行事伝承・活用等事業</b>	
6-1 川越氷川祭の山車行事	11
(1) 概要	11
(2) 行事開催日	11
6-2 保存修理事業	12
(1) 川越氷川祭の山車 元町一丁目の山車〈牛若丸〉上高欄保存修理	12
<b>7 指定文化財の管理</b>	
7-1 指定文化財保存事業(補助事業)	13
(1) 有形文化財・建造物の防災設備保守点検	13
(2) 史跡・天然記念物の保存	13
(3) 有形文化財の修理	13
(4) 有形民俗文化財の修理	14
7-2 文化財保存団体への助成と活動状況	14
(1) 無形民俗文化財の後継者育成・保存事業	14
(2) 文化財関係団体への助成	14
7-3 主な保存事業	15
(1) 三芳野神社社殿保存修理	15
(2) 松平大和守家廟所保存整備	17
<b>8 文化財調査</b>	
8-1 古文書調査	18

8-2	旧川越織物市場建物基礎確認調査	18
<b>9</b>	<b>文化財の活用</b>	
9-1	資料の貸出	22
	(1) 常設展等に貸与した資料	22
	(2) 特別展・企画展等に貸与した資料	22
9-2	市指定文化財の活用状況	22
	(1) 時の鐘	22
	(2) 永島家住宅(旧武家屋敷)	23
	(3) 川越城中ノ門堀跡	24
9-3	他部局所管の文化財施設の状況	24
	(1) 川越城本丸御殿〔博物館〕	24
	(2) 川越市蔵造り資料館〔博物館〕	25
	(3) 旧川越織物市場、旧栄養食配給所〔都市景観課〕	25
	(4) 川越市旧山崎家別邸、川越市旧山崎家庭園〔観光課〕	26
	(5) 川越市産業観光館〔産業振興課〕	26
<b>10</b>	<b>埋蔵文化財</b>	
10-1	埋蔵文化財調査一覧	27
	(1) 発掘調査件数の推移	27
	(2) 発掘調査一覧	27
	(3) 試掘調査一覧	28
10-2	試掘調査	30
10-3	教育委員会の発掘調査	50
	(1) 豊後山遺跡第2次調査	50
	(2) 山王塚古墳第4次調査	52
	(3) 大塚遺跡第4次調査	57
	(4) 喜多院境内遺跡第5次調査ー市指定史跡松平大和守家廟所保存整備に伴う発掘調査ー	58
10-4	遺跡調査会の発掘調査	60
	(1) 霞ヶ関遺跡第24次調査	60
<b>11</b>	<b>伝統的建造物群保存地区保存整備事業</b>	
11-1	伝統的建造物群保存地区制度	62
11-2	地区概要	62
11-3	地区の特性	63
11-4	平成29年度の主な事業の概要	63
11-5	現状変更行為件数	63
11-6	保存事業	64
11-7	保存活動事業	66
11-8	伝統的建造物の特定状況	67
11-9	蔵造り資料館耐震化事業	68
<b>12</b>	<b>普及・啓発事業</b>	
12-1	職員の派遣	69
12-2	刊行物	70
12-3	防火訓練	71
12-4	最新遺跡発表会2017	72
12-5	山王塚古墳発掘調査見学会	73
<b>13</b>	<b>川越市の文化財数</b>	<b>74</b>



# 1 文化財保護課の目標と決算

## 1-1 目標

川越市は、埼玉県を代表する文化財のまちである。これは、各地域の人々が伝承されてきた歴史的建造物や伝統芸能などを大切に守り、伝えてきた結果であり、今後もこれらの貴重な文化財を将来の世代に引き継いでいかなければならない。

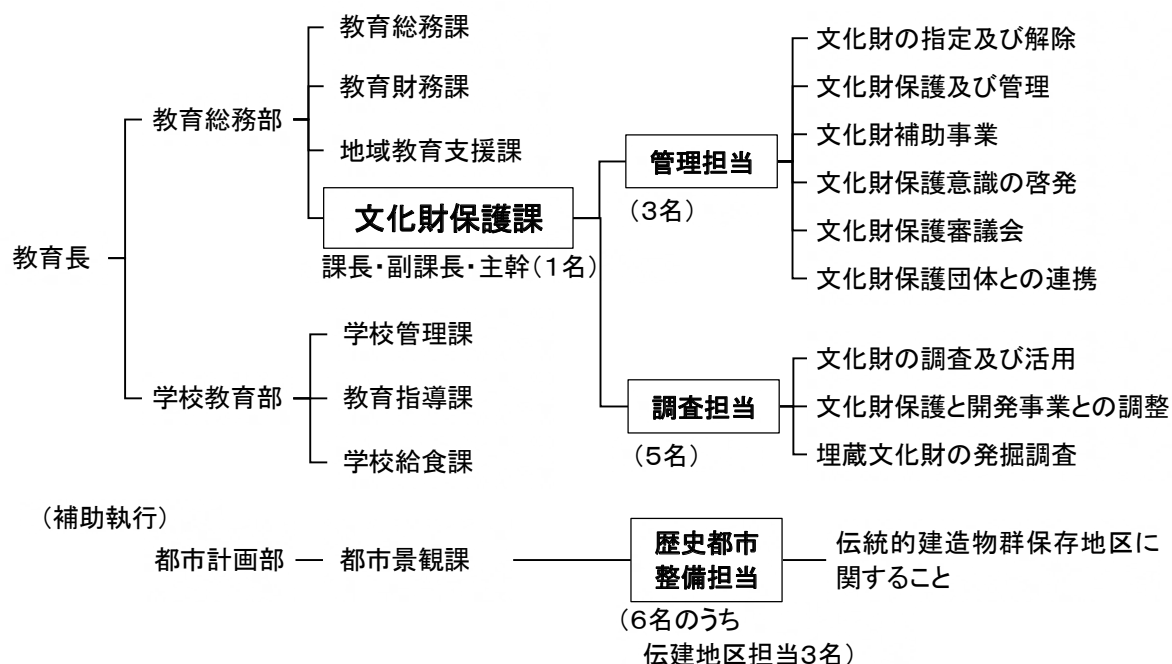
このため、つぎのような目標のもとで、文化財の保存と活用を推進していく。

- ・ 文化財の諸調査を実施し、理解を深めるとともに、その保存と活用を図る。
- ・ 指定文化財の維持、管理の充実とその活用を図る。
- ・ 河越館跡整備及び活用の推進を図る。
- ・ 文化財保護意識の啓発に努める。
- ・ 文化財保護団体等との連携を図り、保護活動の推進に努める。

## 1-2 平成 29 年度決算及び前年度比較

区 分	28 年度決算	29 年度決算	比較増減額	増減率	
一般会計	108,510,901,967	109,767,508,703	1,256,606,736	1.2%	
教育費	12,232,221,969	16,383,957,469	4,151,735,500	33.9%	
文化財保護費	150,269,649	104,562,186	△ 45,707,463	△ 30.4%	
事業別	文化財の維持・管理	93,127,738	61,697,733	△ 31,430,005	△ 33.7%
	文化財の活用	40,969,887	29,887,832	△ 11,082,055	△ 27.0%
	河越館跡整備	16,172,024	12,976,621	△ 3,195,403	△ 19.8%
時の鐘耐震化事業費	76,371,880	—	△ 76,371,880	△ 100.0%	

## 2 教育委員会事務局組織と文化財保護課の主な事務



### 3 附属機関

文化財保護審議会のほか、個々の文化財について検討する委員会を現在3つ設置している。また、都市景観課で伝統的建造物群保存地区保存審議会を設置している。

#### 3-1 文化財保護審議会

川越市文化財保護審議会は、川越市文化財保護条例第4条に基づき設置されており、平成29年度は11名の委員を委嘱している。委員の役割分担は、考古・歴史・民俗・建築・植物・文学などにわかれており、川越市の指定文化財に関する調査と、指定文化財の維持・管理についての助言等を行う。

委員名簿（任期 平成29年4月1日～平成31年3月31日）

職名	氏名	職名	氏名
会長	山野 清二郎	委員	羽生 修二
副会長	松尾 鉄城	〃	馬場 弘
委員	大久根 茂	〃	林 宏一
〃	小久保 徹	〃	牧野 彰吾
〃	酒井 紀美	〃	水上 嘉代子
〃	佐藤 啓子		

#### 開催状況

第1回	期日	平成29年5月19日（金）
	場所	教育委員会室
	出席者	9名
	主な議題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 正副会長選出</li> <li>・ 初雁公園整備について</li> <li>・ 旧織物市場保存整備について</li> <li>・ 山王塚古墳調査について</li> <li>・ 新指定文化財候補について</li> <li>・ 川越氷川祭神幸祭の日程・供奉等について 等</li> </ul>
第2回	期日	平成29年8月25日（金）
	場所	教育委員会室
	出席者	9名
	主な議題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 蔵造り資料館耐震化工事について</li> <li>・ 新指定文化財候補の調査状況について</li> <li>・ ユネスコ無形文化遺産・川越まつり関連について</li> <li>・ 無形民俗文化財の後継者育成について</li> <li>・ 初雁公園基本計画について</li> <li>・ 「川越市の文化財」の改訂について 等</li> </ul>
第3回	期日	平成29年11月22日（水）
	場所	下野国分寺跡、下野薬師寺跡（下野市）、鷹見泉石記念館（古河市）他
	出席者	7名
	主な議題	文化財保護行政視察

第4回	期日	平成30年2月21日(水)
	場所	教育委員会室
	出席者	11名
	主な議題	<ul style="list-style-type: none"> <li>「織物市場」の整備進捗状況について</li> <li>河越流鏝馬の実施について</li> <li>河越館跡・旧永島家住宅の整備進捗状況について</li> <li>個人所有の市指定文化財建造物の活用について</li> <li>新指定文化財候補について</li> <li>山王塚古墳調査について 等</li> </ul>

### 3-2 川越氷川祭の山車行事山車等修理検討委員会

川越氷川祭の山車行事山車等修理検討委員会は、川越氷川祭の山車行事山車等修理検討委員会条例に基づき、川越氷川祭の山車行事に係る山車等の修理等に関して検討を行うため設置されている。平成29年度は、委員として民俗、建築、人形、繊維・染織を専門とする学識経験者と保護団体代表の5名を委嘱している。

委員名簿（任期 平成29年4月1日～平成31年3月31日）

職名	氏名	職名	氏名
委員長	大久根 茂	委員	水上 嘉代子
副委員長	藤澤 彰	〃	笠原 啓一
委員	是澤 博昭		

#### 開催状況

第1回	期日	平成29年5月31日(水)
	場所	教育委員会室
	出席者	5名
	主な議題	<ul style="list-style-type: none"> <li>平成28年度修理事業報告(六軒町〈三番叟〉人形衣装等)</li> <li>平成29年度修理事業進捗報告(元町一丁目〈牛若丸〉上高欄)</li> <li>平成30年度修理事業予定について(喜多町〈秀郷〉車軸等、松江町一丁目〈龍神〉山車本体)</li> <li>平成31年度以降の山車修理事業計画について</li> <li>県有形民俗指定山車の修理について</li> <li>県有形民俗指定山車の無許可修理について</li> </ul>
第2回	期日	平成29年11月27日(月)
	場所	川越まつり会館 多目的室
	出席者	3名
	主な議題	<ul style="list-style-type: none"> <li>平成29年度修理事業進捗報告(元町一丁目〈牛若丸〉上高欄)</li> <li>平成30年度修理事業予定について(喜多町〈秀郷〉車軸等、松江町一丁目〈龍神〉山車本体)</li> <li>平成31年度修理事業予定について</li> <li>今後の山車修理事業に係る調査報告</li> <li>県有形民俗指定山車の解体調査結果等について</li> </ul>



### 3-3 河越館跡整備検討委員会

河越館跡整備検討委員会は、川越市河越館跡整備検討委員会条例に基づき河越館跡の整備に関して検討を行うため設置されている。平成29年度は中世史、考古学、造園学、景観工学等を専門とする10名の委員を委嘱している。

委員名簿（任期 平成28年11月1日～平成30年10月31日）

職名	氏名	職名	氏名
委員長	内田 祥士	委員	小久保 徹
副委員長	梅沢 太久夫	〃	浅野 晴樹
委員	小野 正敏	〃	落合 義明
〃	鈴木 誠	〃	齋藤 慎一
〃	田代 脩	〃	橋口 定志

開催状況

平成29年度は会議開催なし

### 3-4 山王塚古墳調査検討委員会

川越市山王塚古墳調査検討委員会は、川越市山王塚古墳調査検討委員会条例に基づき、山王塚古墳の調査及び研究に関して考古学・古代史などを専門とする学識経験者により検討するため設置された。平成29年度は考古学、古代史を専門とする5名の委員によって検討を行った。

委員名簿（任期 平成28年11月1日～平成30年10月31日）

職名	氏名	職名	氏名
委員長	広瀬 和雄	委員	宮瀧 交二
副委員長	須田 勉	〃	小久保 徹
委員	池上 悟		

開催状況

第1回	期日	平成29年10月12日（木）、13日（金）
	場所	博物館 会議室、山王塚古墳ほか
	出席者	4名
	主な議題	<ul style="list-style-type: none"> <li>平成29年度の発掘調査の途中経過について</li> <li>今後の計画について</li> <li>現地視察</li> </ul>

### 3-5 伝統的建造物群保存地区保存審議会

川越市伝統的建造物群保存地区保存審議会は、川越市伝統的建造物群保存地区保存条例第10条に基づき設置されており、市長及び教育委員会の諮問に応じ、保存地区の保存等に関する重要事項について調査及び審議をし、並びにこれらの事項について市長及び教育委員会に建議することを目的としている。平成29年度は12名の委員を委嘱している。

委員名簿（任期 平成28年8月30日～平成30年8月29日）

職名	氏名	職名	氏名
会長	福川 裕一	委員	村田 章人
副会長	可児 一男	〃	須賀 憲
委員	溝尾 良隆	〃	石村 晃龍
〃	野澤 千絵	〃	隈倉 雄二郎
〃	佐藤 由美子	〃	栗原 智恵三
〃	勝村 直久	〃	竹澤 穰治

#### 開催状況

第1回	期日	平成29年11月22日(水)
	場所	川越市役所本庁舎 7C会議室
	出席者	7名
	主な議題	<ul style="list-style-type: none"><li>• 伝統的建造物の特定について</li><li>• 平成28年度国庫補助事業について</li><li>• 平成29年度国庫補助事業について 修理事業について 文化財建造物等を活用した地域活性化事業について</li></ul>

## 4 新指定文化財

### 4-1 県指定文化財

#### (1) 黒地小花模様小紋帷子<sup>くろじこばなもようこもんかたびら</sup>

名称・員数	黒地小花模様小紋帷子	1領
種別	有形文化財	工芸品
所在地	小仙波町1-20-1	
所有者	宗教法人 喜多院	
指定年月日	平成30年2月27日	



市指定文化財「黒地小花模様小紋帷子」が県指定文化財に指定されたものである。

小仙波町の天台宗寺院喜多院に伝来した小紋染の帷子<sup>かたびら</sup>（夏の衣料）。麻地の一枚仕立てで、三つ葉葵の五つ紋付き。模様は、葵の葉を小花風に様式化して散らし、葉の間に鏝<sup>かん</sup>状の葉を沿うように配した小紋染である。染色技法は、葵の葉模様を型紙に彫り、これを使用して生地に防染糊<sup>ぼうせん</sup>を置き、その後墨などの顔料で引き染を行う「型染<sup>かたぞめ</sup>」が採られている。

全体に染めの輪郭が冴えて表出され、図様も精緻な意匠になるなど、高度な型染の技術が発揮されている。江戸時代初期の小紋帷子として貴重であり、その文化財的価値は高く評価される。着用者については、徳川家の中でも特別な人物であった可能性が高い。

#### (2) 白綾地松竹鶴亀宝尽模様産衣<sup>しろあやじまつたけつるかめたからづくしもようぶぎ</sup>

名称・員数	白綾地松竹鶴亀宝尽模様産衣	1領
種別	有形文化財	工芸品
所在地	小仙波町1-20-1	
所有者	宗教法人 喜多院	
指定年月日	平成30年2月27日	



市指定文化財「白綾地松竹鶴亀宝尽模様産衣」が県指定文化財に指定されたものである。

小仙波町の天台宗寺院喜多院に伝来した産衣（乳児に着せる祝いの着の一種）。浮織<sup>うきおり</sup>の単衣仕立てで、三つ葉葵の五つ紋付。織模様は、宝尽模様（簀、笠、<sup>ちようじ</sup>丁子、七宝、小槌）と若松、竹などが軽快に散らされてる。葵紋の下には、松・竹や筍、鶴・亀といった吉祥模様が刺繍で表されている。

本品は、浮織のやさしい風合いや、蓬萊<sup>ほうらい</sup>模様が古様<sup>こよう</sup>で、刺繍によりおおらかに表現されており定型化していない点、そして形態・仕立て方の点においても、江戸時代前期の特色を示していると言える。江戸時代前期の浮織の産衣として貴重であり、その文化財的価値は高く評価される。着用者については、徳川家縁者である可能性が高い。

## 5 河越館跡史跡整備事業

### 5-1 史跡の概要

1. 種 別 史跡
2. 名 称 河越館跡
3. 所 在 地 大字上戸 192 - 1 他
4. 指 定 等 種 別 昭和 59 年 12 月 6 日史跡指定  
・ 年 月 日 文部省告示第 142 号
5. 指 定 理 由
  - (1) 指定基準 特別史跡名勝天然記念物及び史跡名勝天然記念物指定基準史跡 2 (城跡) による。
  - (2) 説明 河越館跡は川越市の北西部、入間川西岸に位置し、その規模は現存土塁の外周に検出された堀跡を含めて約 5 万平方メートルである。  
河越館跡は、鎌倉時代から南北朝時代にかけて有力な関東武士であった河越氏の城館の遺跡であり、中世武家政権を支えた在地領主の実態を究明する上においてもきわめて重要な遺跡である。
6. 指 定 地 域 川越市大字上戸 192 - 1 他

#### 7. 指定地の面積

市有地	常楽寺土地	その他民有地	合計
37,399㎡	8,491.18㎡	2,619㎡	48,509.18㎡

8. 管理団体又は所有者
  - (1) 名称 川越市
  - (2) 指定年月日 平成元年 7 月 31 日

#### 9. 河越氏と河越館跡

河越氏は、桓武平氏・秩父氏の流れを汲み、平安末期から南北朝期にかけて繁栄し、武蔵国でも有数の勢力を誇った武士である。特に河越重頼は娘が源義経の正妻になったことで知られる。後に、重頼とその子重房は義経の縁者として誅される悲劇もあったが、その曾孫経重は高野山に町石を寄進し、新日吉山王宮に銅鐘を寄進するなどの事蹟を残し、以後、鎌倉幕府の有力御家人として活躍している。

南北朝の動乱後も、鎌倉府の下で勢力を保っていた河越氏であるが、応永元年(1368)に平一揆の中心となり、河越館に立て籠もって鎌倉府に反旗を翻した。しかし敗北し、以後歴史の表舞台から姿を消す。この河越館跡はその河越氏に関係するもので興亡の歴史を秘めた史跡である。

## 5-2 保存整備の経過

昭和7年	3月	河越館跡県指定史跡となる
昭和46年	3月～4月	範囲確認調査(第1次)
〃	7月～8月	範囲確認調査(第2次)
昭和47年	7月～8月	範囲確認調査(第3次)
昭和48年	7月	範囲確認調査(第4次)
〃	11月～12月	範囲確認調査(第5次)
〃	12月～49年2月	範囲確認調査(第6次)
昭和50年	5月～7月	範囲確認調査(第7次)
昭和51年	4月～7月	範囲確認調査(第8次)
昭和52年	5月～9月	範囲確認調査(第9次)
昭和59年	12月	河越館跡国指定史跡となる
昭和61年	3月	史跡河越館跡保存管理計画策定
昭和62年	3月	史跡河越館跡整備計画基礎調査報告書作成
平成元年	7月	川越市、史跡河越館跡の管理団体として指定を受ける
平成5年	1月～3月	常楽寺離れ建替の現状変更に伴う確認調査
平成7年	4月～8月	河越館跡史跡整備に伴う発掘調査(第1次)
平成9年	11月～10年2月	河越館跡史跡整備に伴う発掘調査(第2次)
平成10年	2月～10月	河越館跡史跡整備に伴う発掘調査(第3次)
平成11年	11月～12年3月	河越館跡史跡整備に伴う発掘調査(第4次)
平成13年	2月～3月	河越館跡史跡整備に伴う発掘調査(第5次)
〃	3月	史跡河越館跡整備基本計画策定
〃	11月～14年3月	河越館跡史跡整備に伴う発掘調査(第6次)
平成14年	2月	常楽寺本堂建替の現状変更に伴う確認調査
〃	11月～15年3月	河越館跡史跡整備に伴う発掘調査(第7次)
平成15年	10月～16年3月	河越館跡史跡整備に伴う発掘調査(第8次)
平成16年	10月～17年3月	河越館跡史跡整備に伴う発掘調査(第9次)
平成17年	3月	国史跡河越館跡整備資料報告書作成
〃	10月～18年3月	河越館跡史跡整備に伴う発掘調査(第10次)
平成18年	3月	河越館跡史跡整備基本設計書策定
平成18年	11月～19年3月	河越館跡史跡整備に伴う発掘調査(第11次)
平成19年	12月	河越館跡(第1期)史跡整備実施設計書策定
平成19年	11月～20年3月	河越館跡史跡整備に伴う発掘調査(第12次)
平成20年	2月～3月	平成19年度分(第1期)史跡整備工事
平成20年	9月～21年3月	平成20年度分(第1期)史跡整備工事
平成20年	11月～21年3月	河越館跡史跡整備に伴う発掘調査(第13次)
平成21年	9月～10月	平成21年度分(1期)史跡整備工事
平成21年	11月～22年3月	河越館跡史跡整備に伴う発掘調査(第14次)
平成21年	11月	河越館跡史跡公園開園(13,266.00㎡)
平成22年	10月～23年3月	河越館跡史跡整備に伴う発掘調査(第15次)
平成23年	12月～24年3月	河越館跡史跡整備に伴う発掘調査(第16次)
平成28年	10月～29年1月	河越館跡用地測量業務委託

### 5-3 史跡整備に係る主な事業経過

平成 29 年度は委員会の開催なし。

### 5-4 公有化の推移

年度	取得面積 (㎡)	取得面積 合計 (㎡)	公有化率	年度	取得面積 (㎡)	取得面積 合計 (㎡)	公有化率
昭和 45 年度	5,865	5,865	12%	平成 8 年度	1,393	20,406	42%
昭和 46 年度	6,741	12,606	26%	平成 9 年度	1,763	22,169	45%
昭和 47 年度	809	13,415	27%	平成 10 年度	10,286	32,455	67%
平成 元 年度	253	13,668	28%	平成 11 年度	1,638	34,093	70%
平成 2 年度	487	14,155	29%	平成 12 年度	181	34,274	70%
平成 3 年度	512	14,667	30%	平成 13 年度	1,999	36,273	74%
平成 4 年度	796	15,463	32%	平成 14 年度	295	36,568	75%
平成 5 年度	1,196	16,659	34%	平成 15 年度	204	36,772	76%
平成 6 年度	1,079	17,738	36%	平成 16 年度	395	37,167	77%
平成 7 年度	1,275	19,013	39%	平成 17 年度	232	37,399	77%

※公有化率は、公有化開始以降の推移がわかるように国指定地面積（48,509.18㎡）に対する公有地面積で示す。なお、公有地化予定面積（常楽寺を除く）の公有化率は 93% である。

### 5-5 河越館跡活用事業

#### (1) 河越流鏝馬

1. 開催日：平成 29 年 11 月 18 日（土）
2. 会場：国指定史跡河越館跡
3. 主催：河越流鏝馬実行委員会・川越市教育委員会
4. 協力：上戸小校区 8 自治会・上戸自治会・鯨井自治会・上戸芸能保存会・鯨井の万作保存会・(公社)小江戸川越観光協会・川越市文化財保護協会
5. 演武者：倭式騎馬會
6. 見学者数：約 2,200 人
7. 概要

市内上戸にある国指定史跡河越館跡の活用事業として「河越流鏝馬実行委員会」との共催のもと、河越流鏝馬を実施した。会場となった整備予定地には、南東から北西方向に約 190m の直線コースの馬場を設置。南東を馬場本、北西を馬場末とし、南東から北西に向かって馬を走らせた。

行事の流れとしては、地元保存会による芸能実演後、常楽寺境内で出陣式を行った。その後、流鏝馬会場に移動し、天地人三才之儀、扇舞之儀が行われたのち、5 人の狩装束を身にまとった射手が馬を馳せて流鏝馬を行った。

なお、流鏝馬行事は正式の三的で行い、日本の在来馬を用いた。



地元保存会による芸能実演



写真展開催 西文化会館にて



出陣式 常楽寺にて



流鏝馬

## (2) 行為許可

河越館跡史跡公園の利用にあたり、行為許可の対象となったものは下記のとおりである。

	行為日	行為目的
1	3月25日	グラウンドゴルフ

## 6 川越氷川祭の山車行事伝承・活用等事業

### 6-1 川越氷川祭の山車行事

#### (1) 概要

川越氷川祭の山車行事は、川越氷川神社の例大祭である川越氷川祭に付随して行われる行事である。川越氷川祭は、江戸時代初期に川越藩主松平伊豆守信綱が、川越氷川神社に祭礼用具を寄進し祭礼の執行を奨励したことがはじまりとされている。

川越氷川神社の氏子のうち旧十ヶ町と呼ばれる各町では、山車などの練り物を出して神輿の神幸に供奉してきた。また、自町内や他の町にも山車を曳き、他町の山車と出あう際には、山車を向けて囃子をたたきあう「曳っかわせ」が行われるなど、祭事に伴う多彩な民俗も受け継いできた。現在では行事の規模、範囲が拡大し、市民まつりとしての側面も担っている。

現在ある山車の形状は、上下可動式の二重鉾で上に人形を戴く江戸型山車であり、天下祭の影響を強く受けている。また、囃子台を自在に向けられるように、せいご台より上が水平に回転する仕組みを持つ山車も多い。

10台の山車が昭和43年から「川越氷川祭山車」として県の有形民俗文化財に指定され、平成17年から行事自体が「川越氷川祭の山車行事」として国の重要無形民俗文化財に指定されている。

また、平成28年には「川越氷川祭の山車行事」を含む全国33件の祭礼行事が「山・鉾・屋台行事」としてユネスコ無形文化遺産に登録された。

今後もこの行事を継続していくためには様々な問題を抱えているが、中でも近年は道路の舗装化や行事の毎年開催化の影響により、山車の劣化損傷が避けられない状況にある。人形や装飾品についても経年劣化や急な悪天候を原因とした汚損などが起こっている。

このことから、国指定に係る13町が保有する14台の山車と、県指定に係る1町1台の山車について、損傷状況を調査した上で、順次保存修理事業を行っている。

#### (2) 行事開催日

平成29年度は、本来の例祭日である10月14・15日が土・日曜日に当たっていた。このことを踏まえて関係各所とともに検討を行い、15日午前中の川越氷川神社神幸祭の出御に合わせて山車の供奉を行うこととなった。

しかし、当日は雨天のため神幸祭の出御が見合せとなり、これに伴い山車の供奉も中止された。



## 6-2 保存修理事業

平成 29 年度は 1 町 1 台の山車について、保存修理を行った。

### (1) 川越氷川祭の山車 元町一丁目の山車〈牛若丸〉上高欄保存修理

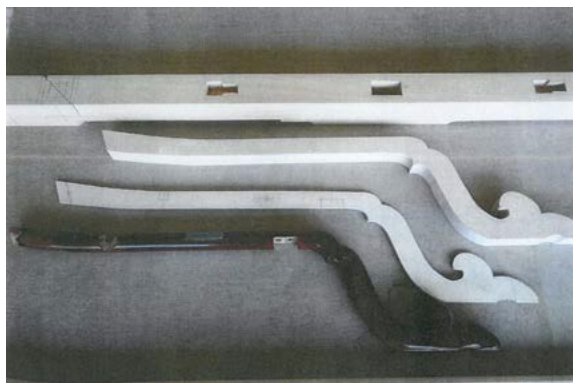
事業名称 川越氷川祭の山車行事伝承・活用等事業  
対象文化財 重要無形民俗文化財 川越氷川祭の山車行事  
埼玉県指定有形民俗文化財 川越氷川祭山車付 絵馬一面 絵巻一卷  
事業期間 平成 29 年 4 月 1 日～ 11 月 24 日

#### 山車の概要

元町一丁目の山車は、四つ車・二重鉾・唐破風屋根・廻り舞台を持つ江戸型山車であり、山車人形は牛若丸である。旧山車は明治 26 年（1893）年の川越大火により焼失しており、現在の山車は、昭和 34 年（1959）年に市内相生町（現、未広町）の大工浦田文治により再建された。

#### 破損状況と修理内容

山車本体のうち、上高欄は部材全体の劣化が進み、特に架木の一部は内部にまで達する大きな割れが生じていた。また地覆が破断しており、金物により応急的に固定している状態であった。そのため修理委員会での審議を仰ぎ、平成 29 年度事業として復元修理を行った。修理は、川越まつりにおいて当山車に付く職方でもある山善建設株式会社が行った。



新規部材加工



漆塗完成・組立

(写真提供 山善建設株式会社)

## 7 指定文化財の管理

### 7-1 指定文化財保存事業（補助事業）

平成29年度に補助金を交付した保存事業は以下のとおりである。

#### (1) 有形文化財・建造物の防災設備保守点検（川越市補助金総交付額 379,000円）

重要文化財	喜多院客殿ほか	防災設備保守点検	経常
〃	東照宮本殿ほか	防災設備保守点検	経常
〃	日枝神社本殿	防災設備保守点検	経常
〃	大沢家住宅	防災設備保守点検	経常
県指定文化財	三芳野神社社殿ほか	防災設備保守点検	経常
〃	氷川神社本殿ほか	防災設備保守点検	経常
〃	古尾谷八幡神社社殿	防災設備保守点検	経常
市指定文化財	原家住宅	防災設備保守点検	経常
〃	小島家住宅	防災設備保守点検	経常
〃	田中家住宅	防災設備保守点検	経常

#### (2) 史跡・天然記念物の保存（川越市補助金総交付額 1,484,000円）

市指定文化財	愛宕神社古墳	環境整備	経常
〃	上戸日枝神社	環境整備	経常
〃	原田家住宅	環境整備	経常
〃	鯨井のヒイラギ	環境整備	経常
〃	松平大和守家廟所	環境整備	臨時
〃	牛塚古墳	環境整備	臨時
〃	下小坂の大ケヤキ	環境整備	臨時
〃	イチョウ	環境整備	臨時
〃	浅間神社古墳	環境整備	臨時
〃	古市場のヒイラギ	環境整備	臨時

#### (3) 有形文化財の修理（川越市補助金総交付額 47,607,000円）

国指定文化財	喜多院保管指定文化財	燻蒸・殺虫	経常
県指定文化財	三芳野神社社殿 ※	保存修理	臨時
市指定文化財	松平家大和守家廟所 ※	保存修理	臨時
〃	原田家住宅	保存修理	臨時
〃	薬師神社	保存修理	臨時

※ 社会資本整備総合交付金（街なみ環境整備事業）の対象事業

(4) 有形民俗文化財の修理 (川越市補助金総交付額 287,000 円)

国指定文化財 川越氷川祭の山車行事 山車の保存修理 (元町一丁目) 臨時

## 7-2 文化財保存団体への助成と活動状況

(1) 無形民俗文化財の後継者育成・保存事業 (川越市補助金総交付額 1,240,000 円)

埼玉県・川越市指定無形民俗文化財 17 件について後継者育成・保存事業を実施、各団体に補助金を交付した。補助の対象となった文化財は次のとおりである。

県指定無形民俗文化財	川越祭りばやし (中台)
〃	川越祭りばやし (今福)
〃	老袋の万作
〃	石原の獅子舞
〃	ほろ祭
〃	老袋の弓取式
市指定無形民俗文化財	南田島の足踊り
〃	鯨井の万作
〃	中福の神楽
〃	筒がゆの神事
〃	芳地戸のふせぎ
〃	まんぐり
〃	福田の獅子舞
〃	上寺山の獅子舞
〃	川越の木遣り
〃	下小坂の獅子舞
〃	石田の獅子舞

(2) 文化財関係団体への助成 (川越市補助金総交付額 400,000 円)

文化財の保護・普及を目的に活動している文化財保護団体に対し、団体育成のため川越市補助金を交付した。

川越氷川祭の山車行事保存会

川越市文化財保護協会

## 7-3 主な保存事業

### (1) 三芳野神社社殿保存修理

事業名称 三芳野神社社殿保存修理事業  
対象文化財 県指定有形文化財（建造物）三芳野神社社殿 付明暦2年銘棟札一枚1棟  
所在地 郭町2-25-11  
事業期間 平成29年4月1日～30年3月31日

#### 概要

三芳野神社社殿は、本殿と拝殿を幣殿でつないだ権現造りである。寛永元年（1624）に幕命により酒井忠勝（後の川越城主）が造営、その後、明暦2年（1656）に時の川越城主・松平信綱により改修が行われた。さらに、弘化4年（1847）にこけら葺きから瓦葺きへ、大正11年には銅板葺きに改められた。

平成元年度から平成3年度にかけての半解体修理では、主に木部修理と屋根の葺き替えが行われたが、漆・彩色の修理は次期修理として実施されなかった。

このような状況から平成27年度より平成30年度まで4か年の予定で、損朽の著しい社殿全体の漆・彩色の塗り直しを主とする保存修理工事を行うこととなった。

平成29年度は事業の3年目であり、昨年度に引き続き、主に社殿外部の塗工事を実施した。

#### 平成29年度の工事内容（主に社殿外部の漆塗り・彩色塗り直し）

##### 漆塗り（弁柄漆）

本殿・幣殿・拝殿の軒廻り（頭貫・斗供・丸桁・垂木）：中～上塗

本殿・幣殿・拝殿の長押下、本殿胴回り：漆塗り掻き落とし・下地付け

本殿角柱・幣殿丸柱・拝殿脇障子：漆掻き落とし

本殿・拝殿入母屋：上塗

拝殿向拝柱：漆塗り掻き落とし・下地付け・下～上塗

建具：下～上塗

##### 彩色 化粧裏板・枇杷板・垂木小口：黄土塗

拝殿向拝手挟彫刻・木鼻（獅子）：洗い落とし・下～中色塗

墓股：下色～仕上げ塗

飾金具取り付け 本殿垂木・入母屋、拝殿向拝破風板・入母屋



仮囲い設営状況（南から）



仮囲い設営状況（西から）



拝殿東入母屋破風・修理完了（南東から）



本殿西入母屋破風・修理完了（南西から）



拝殿向拝軒廻り・漆上塗後（西から）



拝殿正面軒廻り・漆上塗後（西から）



拝殿向拝手挟彫刻・彩色補修状況（下から）



拝殿西面軒廻り・漆上塗後（北西から）



本殿西面軒廻り・漆塗上塗後（北西から）



拝殿東面軒廻り・漆上塗後（南東から）

## (2) 松平大和守家廟所保存整備

事業名称	松平大和守家廟所保存整備事業
対象文化財	市指定有形文化財（史跡）松平大和守家廟所
所在地	小仙波町1-20-8（喜多院内）
事業期間	平成29年5月22日～30年3月31日

### 概要

松平大和守家廟所は、江戸後期から幕末期に川越城主であった松平大和守家歴代当主の墓所である。喜多院・慈恵堂の裏手に位置し、東から霊鷲院（5代朝矩）・俊徳院（6代直恒）・馨徳院（7代直温）・興国院（8代齊典）、南側に1基独立して建中院（10代直侯）という配置である。

近年、経年劣化や震災等の影響により石塔類の傾きや基壇の不陸が著しく、史跡の保存整備が必要となり、平成26年度から5か年の予定で保存整備を実施中である。平成29年度は、保存整備の4年目であり、昨年度解体を行った建中院廟1基の整備工事、廟前の敷石整備工事を主に実施した。

### 平成29年度の工事内容

- 建中院廟（10代直侯）整備工事
- 廟前敷石の整備工事
- 廟所内雨水対策設備の設置



建中院廟・整備工事中（南西から）



廟所内敷石・整備工事後（西から）



建中院廟・整備工事後（北から）



建中院廟・整備工事後（北西から）

## 8 文化財調査

### 8-1 古文書調査

川越の歴史に関する基本史料の整備を図るため、市内に残る文書の所在を確認し、仮目録を作成する事業を平成 28 年度から開始した。

作業は、文書 1 点ずつ標題をとり、文書袋に入れて整理を行った。今年度は、近代の町方文書が主な史料である小林家文書（971 点）、山崎家文書（34 点）。近代の村文書が主な史料である戸泉家文書（413 点）と山畑家文書（498 点）の仮目録を作成した。

また、近世の村方文書が主な史料である奥富家文書及び斎藤家については、来年度も継続して整理を行う予定である。

### 8-2 旧川越織物市場建物基礎確認調査

調査地番	松江町 2-11-10・12-4
調査期間	平成 29 年 12 月 15～26 日
調査面積	15㎡
調査原因	建造物保存整備事業に伴う確認調査



#### 調査の経緯

市指定文化財織物市場の保存整備事業に伴う解体・調査の一環として、建物基礎の構造確認のため発掘調査を行った。

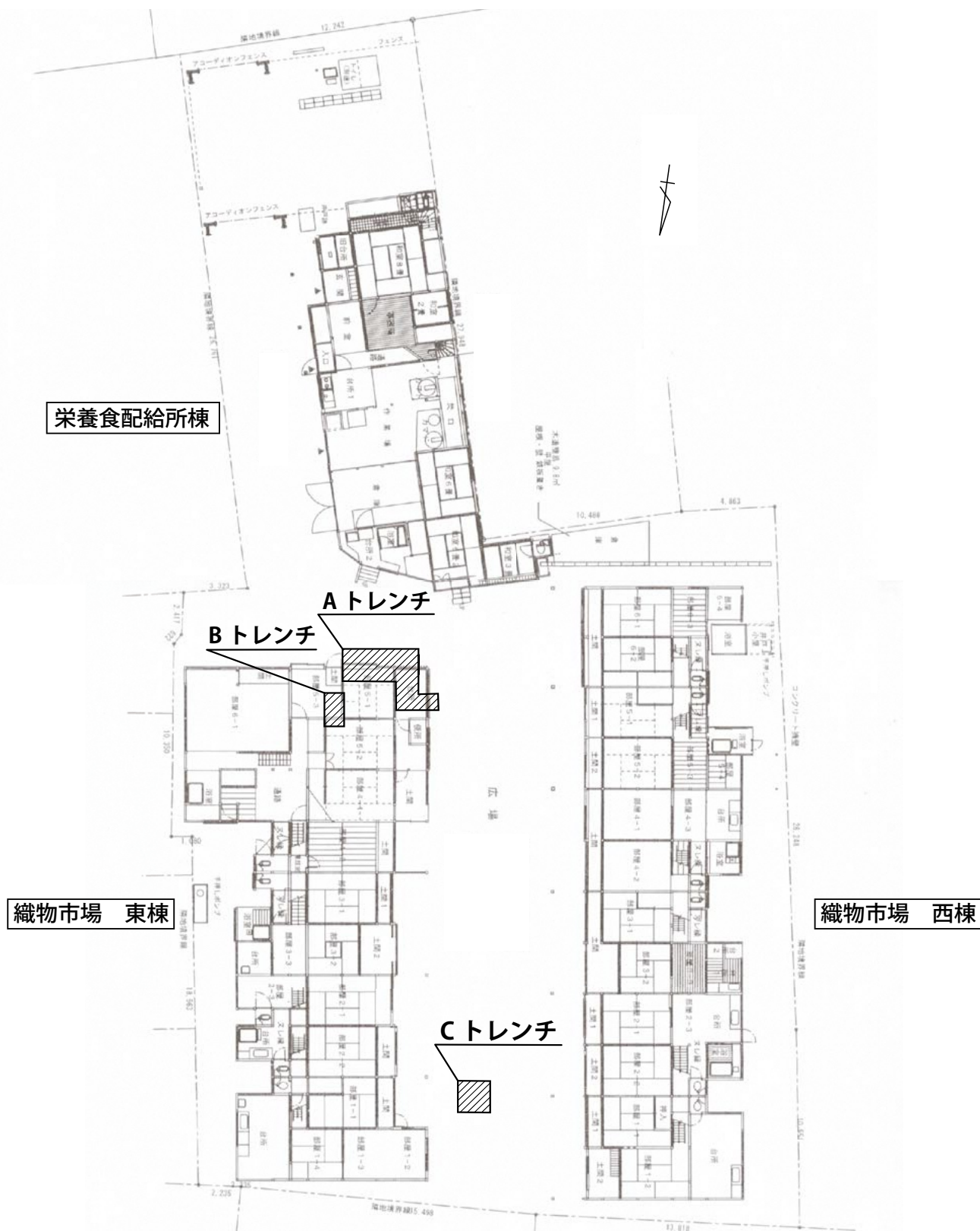
#### 調査の概要

調査に当たり、敷地内に 3 本のトレンチを設定した（第 1 図）。A トレンチは東棟南西隅に設定し、軸柱礎石の断ち割り調査を行った。所見は次のとおりである。

- ①東棟は建設時の旧地表面に 20cm ほど盛土して建てられている。盛土中には、西洋コバルトを用いた瀬戸美濃産の型紙印判の染付火容れ（第 2 図 1）や洋釘（4～7）等を含んでいる。これらの出土遺物の年代観は織物市場の建築年である明治 43 年（1910）と矛盾しない。
- ②軸柱の礎石の下を一辺 50cm、深さ 50cm ほどの方形に掘り窪めて栗石と粘土を交互に入れ、突き固めていた。これらは建物の重量が掛かる軸柱礎石の沈下を防ぐための地業であり、江戸時代以来の伝統的な基礎工法である。
- ③ローム土を叩き締めた土間は建物内 90cm（約三尺）・土底下 180cm（約一間）ほどの幅で認められた。
- ④東棟建設時の盛土の下で江戸時代の地下室を確認した。地下室は廃絶後、17 世紀後半～18 世紀後半の陶磁器（8～18）や大量の鉄滓を含む土砂で埋められていた。『元禄七年川越古絵図』（三芳野神社蔵）には周辺に鉄砲鍛冶「国友佐五エ門」の名があり、これに関わる遺構と考えられる。元禄 7 年は 1694 年である。

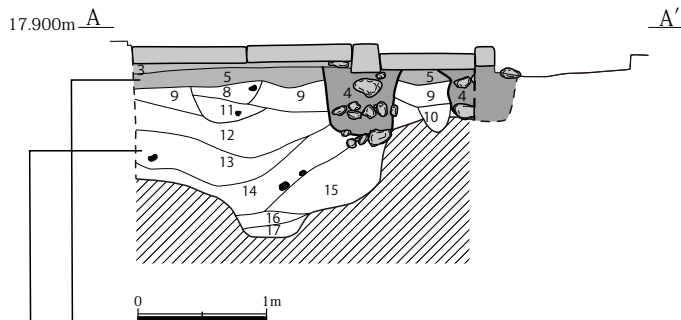
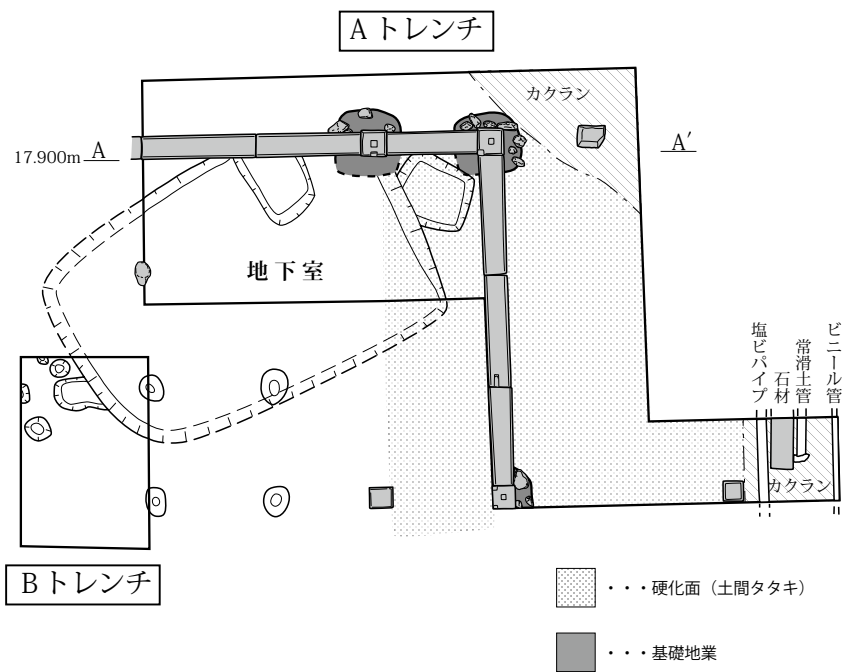
B トレンチは A トレンチ北東に設定し、束柱礎石下の断ち割り調査を行った。比較的荷重の軽い束柱礎石下は地業を行っていないことが判明した。

Cトレンチは敷地北半の東棟と西棟の間に設定し、基本層序を確認した。その結果、Aトレンチ同様、建設時の旧地表面に盛土をした後、ローム土を20cm前後積んで転圧した造成面が観察された。これは織物市場の作業スペースとして造成されたものと思われる。



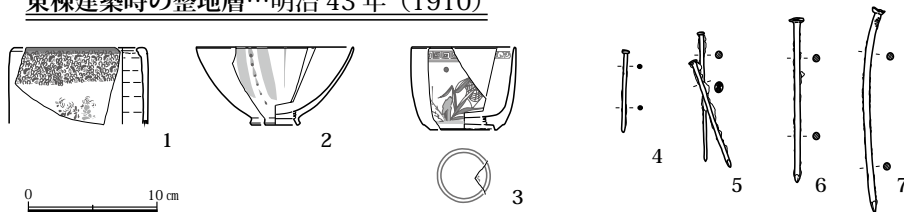
第1図 旧川越織物市場 トレンチ配置図 (1:300)



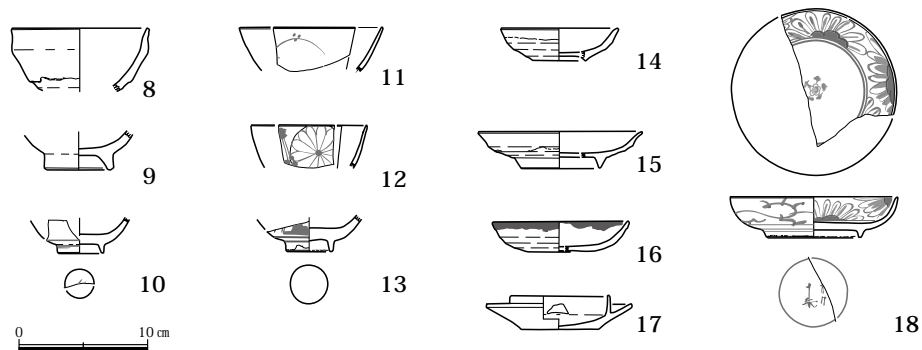


- <土層観察>
- 3 明黄褐色土 (粘土、荒木田) 基礎石の固定に使用
  - 4 明黄褐色土 (粘土、荒木田、握りこぶし〜人頭大の河原石を含む) 礎石地業
  - 5 暗茶褐色土 (小石、陶磁器小片 [19C 中]、洋釘を含む) 東棟建設時の地業層
  - 8 暗灰褐色土 (灰層、炭化物、焼土粒を含む)
  - 9 明茶褐色土 (焼土粒、炭化物を多量に含む)
  - 10 暗黄褐色土 (ローム粒を主体とする)
  - 11 暗黄褐色土 (小石、炭化物を含む)
  - 12 暗茶褐色土 (ローム粒、炭化物粒、焼土粒を含む)
  - 13 黒褐色土 (ローム粒、鉄滓、炭化物、焼土粒を含む)
  - 14 黒色土 (ローム粒、鉄滓、炭化物、焼土粒を含む)
  - 15 暗黄褐色土 (ローム粒を主体とする)
  - 16 明黄褐色土 (ハードロームを主体とする)
  - 17 暗灰土 (粘質土)
- } 近世土坑覆土

東棟建築時の整地層…明治 43 年 (1910)



江戸時代の地下室…17 世紀後半～18 世紀後半



第 2 図 旧川越織物市場 東棟 A・B トレンチ平面図・断面図・出土遺物



旧川越織物市場 調査区全景



Aトレンチ 礎石地業 土層断面



Aトレンチ 礎石地業 検出状態



Bトレンチ 全景



Cトレンチ 造成面 土層断面



Aトレンチ 地下室出土陶磁器



Aトレンチ 地下室出土鉄滓

## 9 文化財の活用

### 9-1 資料の貸出

平成 29 年度には 9 件の依頼を受け、下記のとおり資料の貸出しを行った。

#### (1) 常設展等に貸与した資料 (7 件)

	貸出期間	貸出先	貸出目的	貸出資料
1	4月1日～ 3月31日	入間市博物館	常設展『人間の歴史』に展示	小仙波四丁目遺跡出土遺物 5 点
2	4月1日～ 3月31日	学校法人ひまわり学園	新園舎内展示ケースに展示	寿町東遺跡出土遺物 10 点
3	4月1日～ 8月31日	埼玉県立歴史と民俗の博物館	常設展『埼玉における人々のくらしと文化』に展示	河越館跡出土遺物 9 点
4	4月1日～ 3月31日	市立博物館	常設展『原始・古代コーナー』に展示	河越館跡出土遺物ほか 33 点
5	4月1日～ 3月31日	市立博物館	常設展『原始・古代コーナー』に展示	弁天西遺跡出土遺物 2 点
6	4月1日～ 3月31日	市立博物館	常設展『原始・古代コーナー』に展示	弁天南遺跡出土遺物ほか 9 点
7	3月7～31日	市立博物館	常設展『原始・古代コーナー』に展示	霞ヶ関遺跡出土遺物 1 点

#### (2) 特別展・企画展等に貸与した資料 (2 件)

	貸出期間	貸出先	貸出目的	貸出資料
1	4月1～28日	蓮田市文化財展示館	10 周年記念企画展『埼玉の関山式土器・黒浜式土器』に展示	弁天南遺跡出土遺物ほか 11 点 2 箱
2	11月14日～ 3月9日	埼玉県立嵐山史跡の博物館	企画展『武蔵武士とその本拠』に展示	河越館跡出土遺物ほか 50 点

### 9-2 市指定文化財の活用状況

#### (1) 時の鐘

種 別 市指定有形文化財 建造物  
所在地 幸町 15-7

時の鐘は、江戸時代初期に川越城主酒井忠勝により現在の場所に創建されたと伝わる。大火による焼失を繰り返し、現在の時の鐘は明治 26 年 (1893) の川越大火の翌年に再建された。

現在では小江戸川越のシンボルとなっている。自動鐘打機による 1 日 4 回の鐘つき (午前 6 時、正午、午後 3 時、午後 6 時に各 6 打ずつ) と夜間ライトアップ (午後 10 時まで) を行っている。



## 川越市による活用

	月日	件名	内容
1	8月6・9日	原爆の日における時の鐘の点鐘	広島市及び長崎市の原爆死没者の冥福と平和を祈念するため、原爆投下の同日同時刻に点鐘した。

## 他団体による活用

	月日	件名	団体名	内容
1	5月3・4日	第24回小江戸川越春まつりスタンプラリー	小江戸川越観光推進協議会	小江戸川越スタンプラリーのチェックポイントを設置した。
2	7月28・29日	小江戸夏まつりオリエンテーリング	川越百万灯夏まつり実行委員会	川越百万灯夏まつりの一環で行うオリエンテーリングのチェックポイントを設置した。
3	7月29日	小江戸川越打ち水風情2017	川越・川越小江戸・川越西・川越中央ロータリークラブ	温暖化対策キャンペーンで行う打ち水の開始の合図として時の鐘を点鐘した。
4	11月4・5日	食と音と灯りの融合事業	食と音と灯りの融合実行委員会	街なみのライトアップとともに時の鐘のライトアップを行った。
5	12月31日～1月1日	除夜の鐘	川越薬師講	NPO法人川越蔵の会の協力の元、大晦日の除夜の鐘として市民等が時の鐘を108回打った。

## (2) 永島家住宅（旧武家屋敷）

種 別 市指定記念物 史跡  
所在地 三久保町5-3

永島家住宅は、川越城南大手門近くの武家地であった南久保町（現三久保町の一部）の一角に構えられた中級武士の武家屋敷である。江戸後期の建築と見られる家屋、屋敷周囲とも手が加えられているものの、当時の状況をよく保存している。平成21年に建物の一部と土地の寄付を受け、平成24年3月から庭園の公開を開始した。平成28年度に残りの建物部分が寄付され、土地・建物の全てが市の所有となった。



### 庭園公開

平成29年4月から、一般公開を月1回（第3土曜日）から毎週土曜日に拡大した。

一般公開 毎週土曜日（12月29日～1月3日除く）  
特別公開 川越まつり（日曜日）、市民の日（12月1日）  
公開時間 午前9時～午後4時

### 見学者数

公開月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
見学人数	301	232	201	115	118	241	429	248	185	144	151	329	2,694

### (3) 川越城中ノ門堀跡

種 別 県指定史跡「川越城跡」の一部  
所在地 郭町1-8-6

川越城は長禄元年（1457）に太田道真・道灌父子により築城され、江戸時代まで存続した。中ノ門堀は、江戸時代の正保年間（1644～47）に川越藩主松平信綱が行った城の拡張工事に伴って築造された堀と考えられる。

明治以降に旧城内の宅地化が進む中、堀跡としては唯一埋め立てられず残存していた。平成20年度に市が用地取得、平成21年度に整備を行い、平成22年度から公開している。



#### 活用の状況

公開時間 午前9時～午後5時（12月29日～1月3日除く）

## 9-3 他部局所管の文化財施設の状況

### (1) 川越城本丸御殿〔博物館〕

指定名称 川越城本丸御殿及び家老詰所  
種 別 県指定有形文化財 建造物  
所在地 郭町2-13-1

本丸御殿は嘉永元年（1848）に当時の城主松平大和守齊典により建築された御殿建築。明治以降次第に解体され、玄関と大広間部分のみが残っている。昭和42年の県指定後に復原修理し、一般公開を開始した。家老詰所は昭和62年に復原移築された。



#### 活用の状況

開館時間 午前9時～午後5時

休館日 月曜日（休日の場合は翌日）、第4金曜日（休日を除く）、12月29日～1月3日

#### 現状変更・修理等の状況

石垣修繕

## (2) 川越市蔵造り資料館〔博物館〕

指定名称 旧小山家住宅（店蔵・袖蔵）、  
旧小山家住宅（住居棟、一番蔵、二番蔵、三番蔵、便所棟、稲荷社、門及び塀）  
種 別 市指定有形文化財 建造物  
所 在 地 幸町7-9



明治26年（1893）の川越大火直後に、煙草商を営む小山家（屋号万文）が建設した蔵造り商家。昭和52年から川越市文化財保護協会により蔵造り資料館として公開され、昭和58年に教育委員会の所管となった。

### 活用の状況

耐震化工事のため6月まで一部無料公開、7月1日から休館。

開館時間 午前9時～午後5時

休館日 月曜日（休日の場合は翌日）、第4金曜日（休日を除く）、12月29日～1月3日

### 現状変更・修理等の状況

蔵造り資料館耐震化工事（平成28年10月18日～平成31年）

## (3) 旧川越織物市場、旧栄養食配給所〔都市景観課〕

指定名称及び所在地  
旧川越織物市場 松江町2-11-10  
旧栄養食配給所 松江町2-12-4  
種 別 市指定有形文化財 建造物



旧川越織物市場は明治43年（1910）、衰退する川越の織物流通業界の起死回生策として建設された。旧栄養食配給所は当初は事務所だったとみられる建物で、昭和9年（1934）から昭和20年まで栄養食配給所が開設されていた。平成14年に建物、平成25年に土地を市が取得し、平成26年度から活用に向けた調査等を行っている。

### 現状変更・修理等の状況

部材修復設計（全解体調査）を実施

#### (4) 川越市旧山崎家別邸、川越市旧山崎家庭園〔観光課〕

指定・登録名称及び種別

山崎家別邸 市指定有形文化財 建造物

旧山崎氏別邸庭園 国登録記念物 名勝地

所在地 松江町2-7-8



山崎家別邸は、「亀屋」の5代目嘉七氏の隠居所として大正13年（1924）に建設された、洋折衷住宅と和風庭園。保岡勝也が設計した。

平成18年に市の所有となり、平成26年度に建物改修工事、平成27年度に植栽工事等を実施。平成28年度から庭園・母屋を一般公開している。

#### 活用の状況

開館時間 4月～9月 午前9時30分～午後6時30分

10月～3月 午前9時30分～午後5時30分

休館日 第1・3水曜日、12月29日～1月1日

#### 現状変更・修理等の状況

防犯カメラ設置工事（母屋）

#### (5) 川越市産業観光館〔産業振興課〕

登録名称 旧鏡山酒造明治蔵、旧鏡山酒造大正蔵、旧鏡山酒造昭和蔵

種別 国登録有形文化財

所在地 新富町1-10-1



明治8年（1875）に創業した鏡山酒造の酒蔵である。平成12年（2000）に廃業した翌年市が土地と建物を取得し、平成19～20年度に建物改修工事を実施した。平成22年度から産業観光館「小江戸蔵里」として活用している。

#### 活用の状況

指定管理により、地域の特産物などを提供する飲食・物販施設として活用している。

#### 現状変更・修理等の状況

昭和蔵リニューアル工事

## 10 埋蔵文化財

市内には、345カ所の埋蔵文化財包蔵地があり、これらは国・県の指導により分布調査を行い設定したものである。この包蔵地内で土木工事などの開発行為を行う場合には、工事に先立って、埋蔵文化財の有無を確認するための試掘調査が必要である。平成29年度は以下のとおり80件の試掘調査を実施した。

試掘調査により埋蔵文化財の存在が認められた場合は開発者側と保存について協議を行い、開発によって破壊を免れない埋蔵文化財については、遺跡の姿を後世に伝えることを目的とした緊急発掘調査を実施している。平成29年度は5件の発掘調査を行い、多くの遺構が検出され、遺物が出土している。

### 10－1 埋蔵文化財調査一覧

#### (1) 発掘調査件数の推移

年度	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	10年間の合計
件数	15	15	7	10	6	4	1	4	4	4	70件
前年度からの継続	2	1	2	2	1	0	1	0	1	1	－
合計	17	16	9	12	7	4	2	4	5	5	－

#### (2) 発掘調査一覧

	遺跡名	調査回数	調査地番	原因	調査面積
			調査期間	調査主体	時代
1	豊後山遺跡	2次	的場 2426 ほか	道路建設	1,029㎡
			4月1日～6月9日 ※	教育委員会	古代、中世
2	山王塚古墳	4次	大塚 1－21－12	史跡内容確認	約20㎡
			9月4日～2月1日	教育委員会	古墳（終末）
3	大塚遺跡	4次	今福 867－4	道路建設	約40㎡
			10月16日～11月2日	教育委員会	縄文（中期）
4	霞ヶ関遺跡	24次	霞ヶ関東 4－6－6	建売住宅建築	約52㎡
			11月20日～12月26日	遺跡調査会	古代（奈良）
5	喜多院境内遺跡	5次	小仙波町 1－20－8	史跡整備	約5㎡
			12月5～12日	教育委員会	近世（江戸後期）

※ 前年度から継続



## (3) 試掘調査一覧

《結果欄について》

遺構なし…× 遺構あり…○ 本発掘調査実施…◎

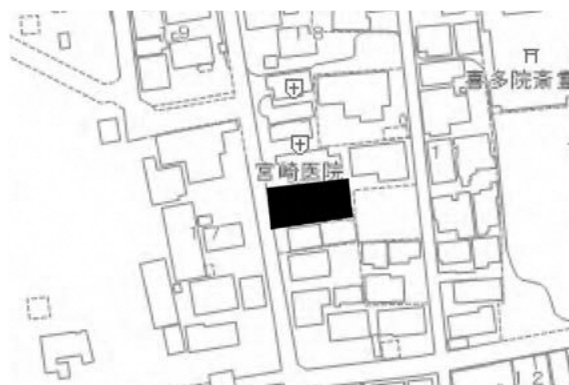
	実施日	調査地番	調査面積	遺跡名	結果
1	4月 13日	小仙波町1-16-8	360㎡	喜多院境内遺跡	×
2	4月 19日	仙波町1-11-8ほか	359㎡	弁天西遺跡	×
3	4月 25日	大字鯨井1767-1	245㎡	花見堂遺跡	○
4	5月 2日	大字寺尾873-9	102㎡	田成遺跡	×
5	5月 8日	大字鯨井1862-1	662㎡	花見堂遺跡	×
6	5月 15日	大字的場920	94㎡	八幡前・若宮遺跡	×
7	5月 22日	豊田町3-22-8、大塚1-21-4	489㎡	山王脇遺跡	×
8	5月 24日	大字寺尾145-3ほか	499㎡	寺尾貝塚	×
9	5月 25日	大字下広谷425-7	1,200㎡	戸宮前遺跡	○
10	5月 29日	大字藤間345-166	100㎡	藤原町遺跡	×
11	5月29・31日	大字寺尾206-3ほか	2,265㎡	寺尾貝塚	×
12	6月 1日	大字上戸339-1	220㎡	龍光遺跡	×
13	6月 2日	郭町2-5-13	100㎡	川越城跡	×
14	6月 5日	大字鴨田1135-1	330㎡	下居田B遺跡	×
15	6月 6日	大字鯨井1767-3	300㎡	花見堂遺跡	○
16	6月 7日	大字の場433-2	113㎡	八幡前・若宮遺跡	×
17	6月 13日	大手町9-11	295㎡	川越城跡	○
18	6月15・16日	豊田町3-12-4ほか	2,360㎡	山王脇遺跡	×
19	6月 27日	広栄町21-15	124㎡	山王脇遺跡	×
20	6月 28日	新宿町1-5-8	159㎡	東裏遺跡	×
21	6月 29日	郭町2-5-30	119㎡	川越城跡	×
22	7月 4日	大字寺尾701-5ほか	253㎡	田成遺跡	×
23	7月 4日	大字並木258-9	258㎡	並木遺跡	×
24	7月 5日	大字の場595-1	295㎡	西若宮遺跡	×
25	7月 13日	かし野台2-13-3ほか	411㎡	山城上遺跡	×
26	7月 19日	大字寺尾314-14	103㎡	寺尾貝塚	×
27	7月 21日	大字寺尾93-5	494㎡	寺尾貝塚	×
28	7月 24日	仙波町3-8-2ほか	402㎡	弁天南遺跡	○
29	7月 25日	大塚1-23-23	100㎡	山王脇遺跡	×
30	7月 26日	大字の場595-31	407㎡	西若宮遺跡	×
31	8月 1日	西小仙波町1-20-1	129㎡	喜多院境内遺跡	×
32	8月 8日	大字北田島68-2ほか	1,125㎡	小池町遺跡	×
33	8月 22日	大字寺尾117-4	94㎡	寺尾貝塚	○
34	8月 23日	大字古谷上4200-1	52㎡	善仲寺遺跡	×
35	8月 24日	上野田町22-8	201㎡	上野田A遺跡	×
36	8月 28日	大字藤間391-24	334㎡	藤原町遺跡	×
37	8月 29日	豊田町2-23-12ほか	625㎡	大陣遺跡	×
38	8月 31日	小仙波町4-2-15	135㎡	小仙波4丁目遺跡	×
39	9月 5・6日	大字寺尾197ほか	1,347㎡	寺尾貝塚	×
40	9月 7日	小仙波町5-8-9	274㎡	弁天西遺跡	○
41	9月 7日	大字寺尾883-14	100㎡	田成遺跡	×
42	9月 8日	大字の場439-40の一部	126㎡	八幡前・若宮遺跡	×
43	9月 13日	霞ヶ関東4-6-6	108㎡	霞ヶ関遺跡	◎

	実施日	調査地番	調査面積	遺跡名	結果
44	9月 15日	小仙波町3-18-6	276㎡	小仙波4丁目遺跡	×
45	9月 22日	大字下小坂614-1地先	600㎡	大道端遺跡	×
46	9月 26日	大字今福867-4	9,075㎡	大塚遺跡	◎
47	10月 11日	大字的場1977-6	894㎡	殿山北遺跡	×
48	10月 17日	大字的場2403-1ほか	602㎡	鎌屋敷遺跡	×
49	10月19・20日	中台2-9-1ほか	2,927㎡	大塚遺跡	×
50	11月 2日	大字笠幡4540-5ほか	308㎡	本郷遺跡	×
51	11月 14日	小仙波町4-8-13	148㎡	小仙波4丁目遺跡	×
52	11月 24日	大字寺尾71-13	102㎡	寺尾貝塚	×
53	11月 27日	大字的場463-1	271㎡	八幡前・若宮遺跡	×
54	11月 29日	大字寺尾857-1ほか	1,674㎡	田成遺跡	×
55	12月 7日	大字鯨井新田76-1ほか	945㎡	上郷遺跡	×
56	12月 14日	小仙波町1-12-3	103㎡	喜多院境内遺跡	×
57	12月 15日	大字寺尾124-1の一部	80㎡	寺尾貝塚	×
58	12月 21日	大字南田島2207ほか	49㎡	南田島遺跡	×
59	12月 22日	郭町2-4-9	399㎡	川越城跡	×
60	12月 27日	大字上戸127-1ほか	457㎡	天王遺跡	○
61	1月 10日	大字的場431-24	105㎡	八幡前・若宮遺跡	×
62	1月 12日	藤原町14-2	404㎡	藤原町遺跡	×
63	1月16・17日	大字寺尾613ほか	1,957㎡	寺尾貝塚	○
64	1月 18日	的場1-29-13	100㎡	前大町遺跡	×
65	1月 25日	大字鯨井1818ほか	1,467㎡	有泉遺跡	×
66	1月 29日	新宿町6-32-10	681㎡	跡遺跡	×
67	1月 30日	小仙波町5-7-41ほか	220㎡	弁天西遺跡	○
68	2月 7日	大字下小坂110-1	14,393㎡	登戸遺跡	◎
69	2月 13日	大字小中居296-2ほか	704㎡	並木遺跡	×
70	2月 19日	郭町1-17-4ほか	402㎡	川越城跡	×
71	2月 21日	仙波町3-9-13	260㎡	弁天南遺跡	○
72	2月 22日	大字下広谷219-1の一部	66㎡	宮前遺跡	×
73	2月 27日	大字的場490-1	485㎡	八幡前・若宮遺跡	×
74	2月 28日	郭町2-3-11	347㎡	川越城跡	×
75	3月 2日	大字南田島2206-1ほか	1,420㎡	南田島遺跡	×
76	3月 8日	大字的場618-6	100㎡	西若宮遺跡	×
77	3月 19日	的場1-29-36ほか	130㎡	前大町遺跡	×
78	3月 20日	大字南田島654-3	90㎡	南田島遺跡	×
79	3月 23日	大字鯨井1857-8	307㎡	花見堂遺跡	○
80	3月 26日	藤原町26-11	662㎡	藤原町遺跡	×

## 10 - 2 試掘調査

### No. 1 喜多院境内遺跡 (19 - 110)

調査地番 小仙波町 1 - 16 - 8  
調査面積 360㎡  
調査日時 平成 29 年 4 月 13 日  
調査原因 集合住宅  
調査結果 遺構なし



### No. 2 弁天西遺跡 (19 - 116)

調査地番 仙波町 1 - 11 - 8ほか  
調査面積 359㎡  
調査日時 平成 29 年 4 月 19 日  
調査原因 集合住宅  
調査結果 遺構なし



### No. 3 花見堂遺跡 (19 - 42)

調査地番 大字鯨井 1767 - 1  
調査面積 245㎡  
調査日時 平成 29 年 4 月 25 日  
調査原因 個人住宅  
調査結果 遺構あり (中世・溝)  
対 応 盛土保存



### No. 4 田成遺跡 (19 - 141)

調査地番 大字寺尾 873 - 9  
調査面積 102㎡  
調査日時 平成 29 年 5 月 2 日  
調査原因 個人住宅  
調査結果 遺構なし



No. 5 花見堂遺跡 (19-42)

調査地番 大字鯨井 1862-1  
調査面積 662㎡  
調査日時 平成 29 年 5 月 8 日  
調査原因 保育施設  
調査結果 遺構なし



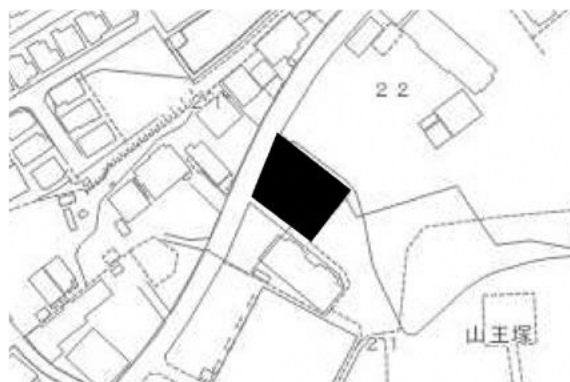
No. 6 八幡前・若宮遺跡 (19-59)

調査地番 大字的場 920  
調査面積 94㎡  
調査日時 平成 29 年 5 月 15 日  
調査原因 個人住宅  
調査結果 遺構なし



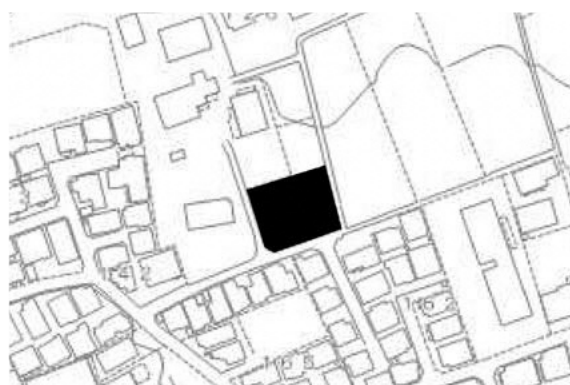
No. 7 山王脇遺跡 (19-156)

調査地番 豊田町 3-22-8、大塚 1-21-4  
調査面積 489㎡  
調査日時 平成 29 年 5 月 22 日  
調査原因 集合住宅  
調査結果 遺構なし



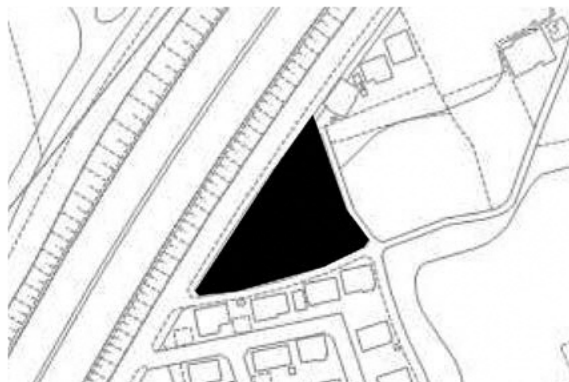
No. 8 寺尾貝塚 (19-140)

調査地番 大字寺尾 145-3ほか  
調査面積 499㎡  
調査日時 平成 29 年 5 月 24 日  
調査原因 分譲住宅  
調査結果 遺構なし



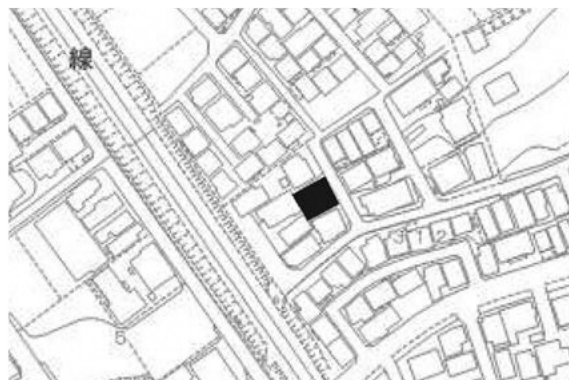
No. 9 戸宮前遺跡 (19-1)

調査地番 大字下広谷 425-7  
調査面積 1,200㎡  
調査日時 平成 29 年 5 月 25 日  
調査原因 資材置場  
調査結果 遺構あり (室町・溝)  
対 応 盛土保存



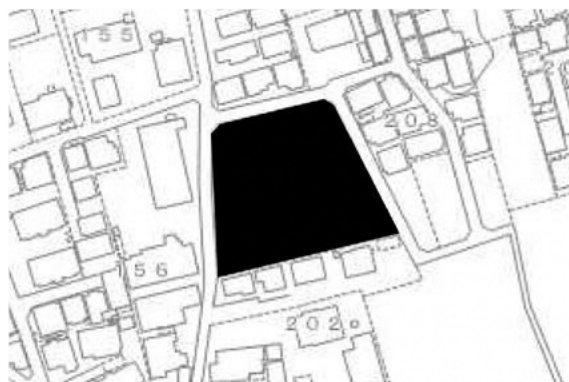
No.10 藤原町遺跡 (19-142)

調査地番 大字藤間 345-166  
調査面積 100㎡  
調査日時 平成 29 年 5 月 29 日  
調査原因 個人住宅  
調査結果 遺構なし



No.11 寺尾貝塚 (19-140)

調査地番 大字寺尾 206-3ほか  
調査面積 2,265㎡  
調査日時 平成 29 年 5 月 29・31 日  
調査原因 集合住宅  
調査結果 遺構なし



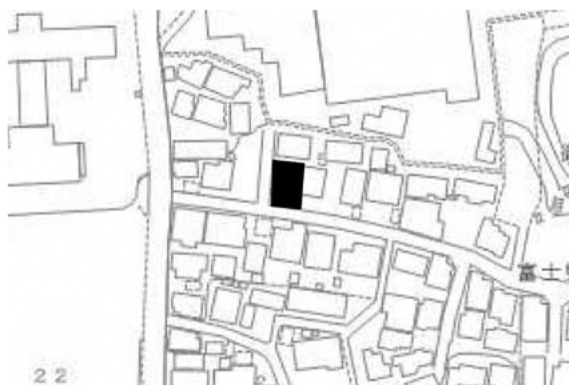
No.12 龍光遺跡 (19-47)

調査地番 大字上戸 339-1  
調査面積 220㎡  
調査日時 平成 29 年 6 月 1 日  
調査原因 個人住宅  
調査結果 遺構なし



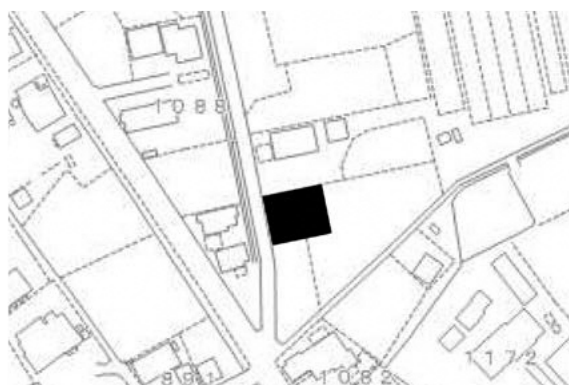
No.13 川越城跡 (19 - 89)

調査地番 郭町2-5-13  
調査面積 100㎡  
調査日時 平成29年6月2日  
調査原因 個人住宅  
調査結果 遺構なし  
対 応 工事立会



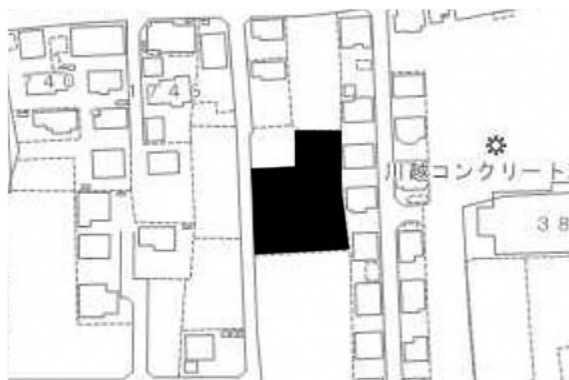
No.14 下居田B遺跡 (19 - 249)

調査地番 大字鴨田1135-1  
調査面積 330㎡  
調査日時 平成29年6月5日  
調査原因 個人住宅  
調査結果 遺構なし



No.15 花見堂遺跡 (19 - 42)

調査地番 大字鯨井1767-3  
調査面積 300㎡  
調査日時 平成29年6月6日  
調査原因 個人住宅  
調査結果 遺構あり(古墳~古代・住居跡、中世・溝)  
対 応 盛土保存



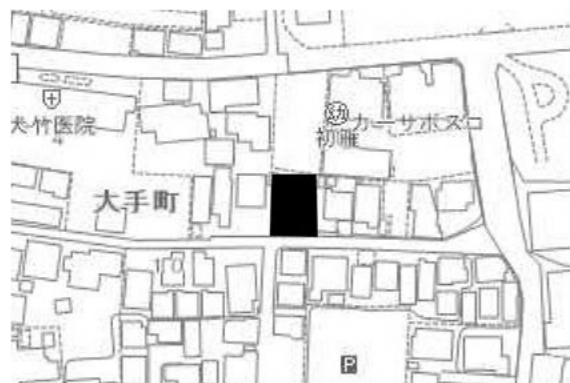
No.16 八幡前・若宮遺跡 (19 - 59)

調査地番 大字的場433-2  
調査面積 113㎡  
調査日時 平成29年6月7日  
調査原因 建売住宅  
調査結果 遺構なし



No.17 川越城跡 (19-89)

調査地番 大手町9-11  
調査面積 295㎡  
調査日時 平成29年6月13日  
調査原因 個人住宅  
調査結果 遺構あり(近世・堀)  
対 応 一部盛土保存



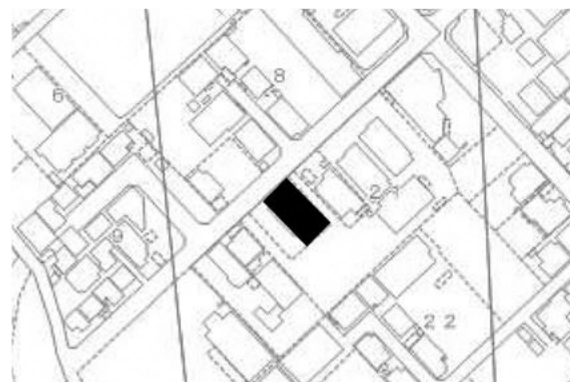
No.18 山王脇遺跡 (19-156)

調査地番 豊田町3-12-4ほか  
調査面積 2,360㎡  
調査日時 平成29年6月15・16日  
調査原因 店舗  
調査結果 遺構なし



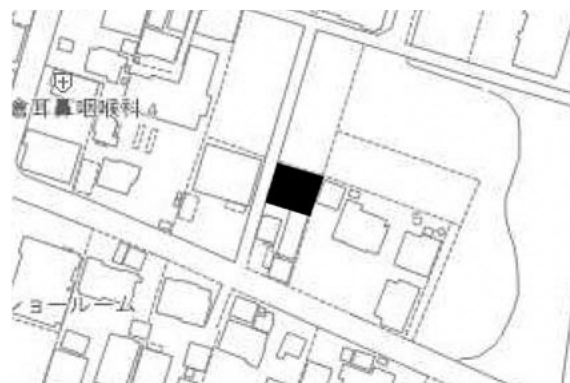
No.19 山王脇遺跡 (19-156)

調査地番 広栄町21-15  
調査面積 124㎡  
調査日時 平成29年6月27日  
調査原因 個人住宅  
調査結果 遺構なし



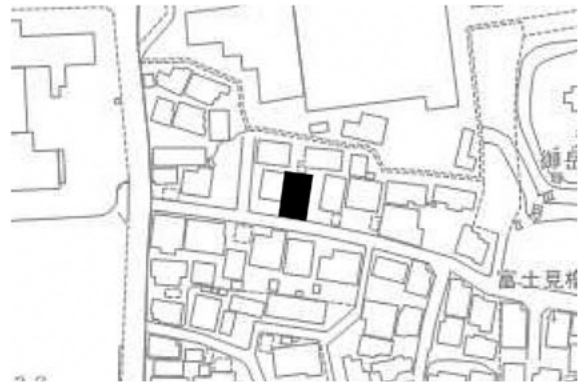
No.20 東裏遺跡 (19-122)

調査地番 新宿町1-5-8  
調査面積 159㎡  
調査日時 平成29年6月28日  
調査原因 個人住宅  
調査結果 遺構なし



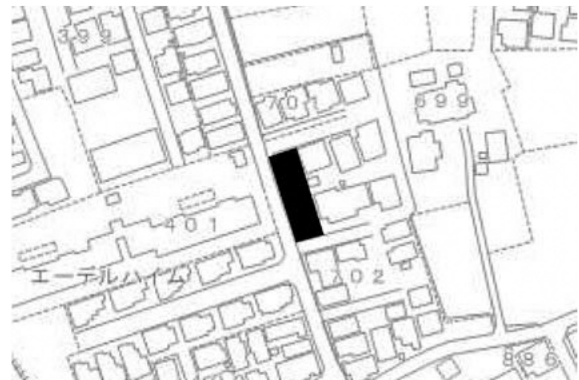
No.21 川越城跡 (19-89)

調査地番 郭町2-5-30  
調査面積 119㎡  
調査日時 平成29年6月29日  
調査原因 個人住宅  
調査結果 遺構なし



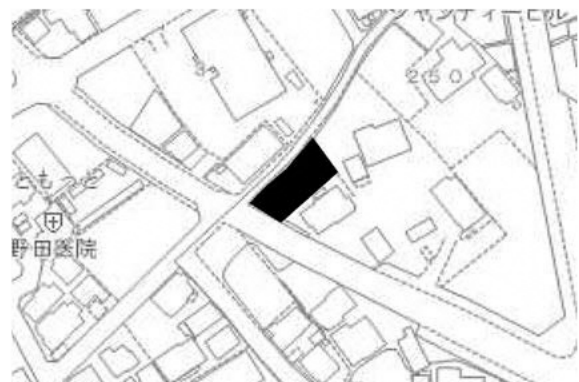
No.22 田成遺跡 (19-141)

調査地番 大字寺尾701-5ほか  
調査面積 253㎡  
調査日時 平成29年7月4日  
調査原因 個人住宅  
調査結果 遺構なし



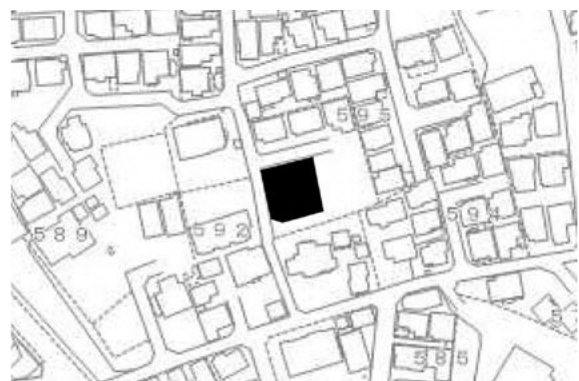
No.23 並木遺跡 (19-326)

調査地番 大字並木258-9  
調査面積 258㎡  
調査日時 平成29年7月4日  
調査原因 店舗兼住宅  
調査結果 遺構なし



No.24 西若宮遺跡 (19-58)

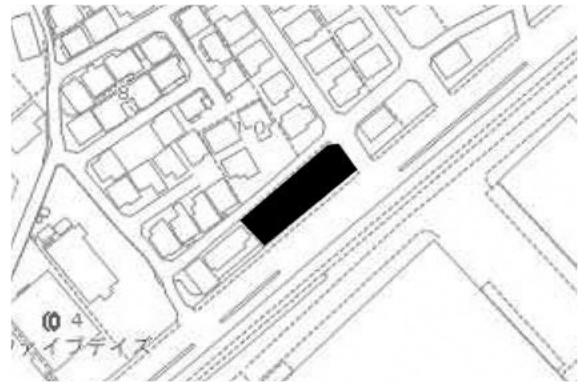
調査地番 大字的場595-1  
調査面積 295㎡  
調査日時 平成29年7月5日  
調査原因 個人住宅  
調査結果 遺構なし





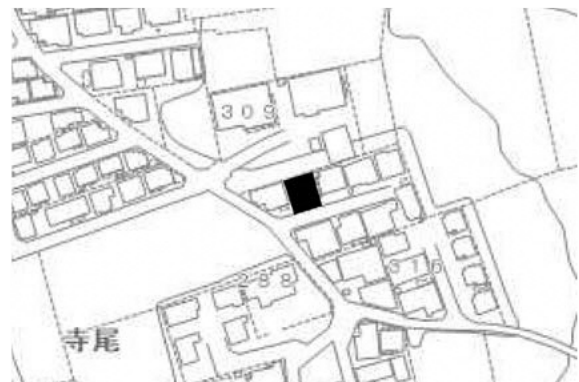
No.25 山城上遺跡 (19-218)

調査地番 かし野台2-13-3ほか  
調査面積 411㎡  
調査日時 平成29年7月13日  
調査原因 分譲住宅  
調査結果 遺構なし



No.26 寺尾貝塚 (19-140)

調査地番 大字寺尾314-14  
調査面積 103㎡  
調査日時 平成29年7月19日  
調査原因 建売住宅  
調査結果 遺構なし



No.27 寺尾貝塚 (19-140)

調査地番 大字寺尾93-5  
調査面積 494㎡  
調査日時 平成29年7月21日  
調査原因 個人住宅  
調査結果 遺構なし



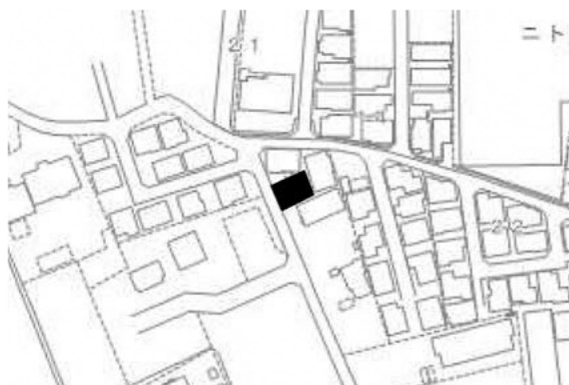
No.28 弁天南遺跡 (19-118)

調査地番 仙波町3-8-2ほか  
調査面積 402㎡  
調査日時 平成29年7月24日  
調査原因 店舗兼個人住宅  
調査結果 遺構あり(縄文・住居)  
対応 盛土保存



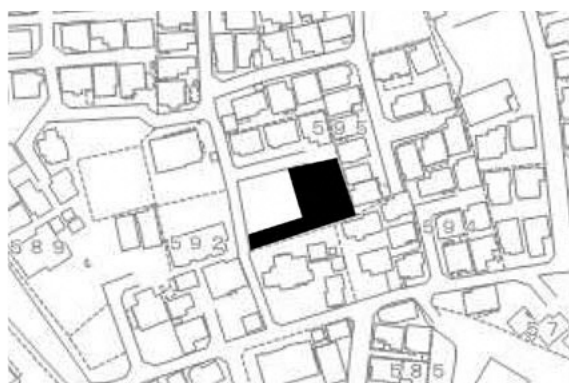
No.29 山王脇遺跡 (19 - 156)

調査地番 大塚 1 - 23 - 23  
調査面積 100㎡  
調査日時 平成 29 年 7 月 25 日  
調査原因 個人住宅  
調査結果 遺構なし



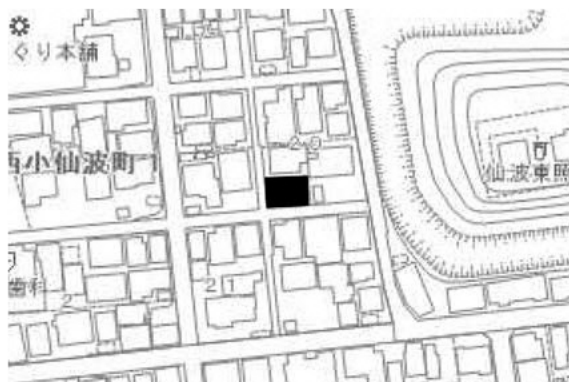
No.30 西若宮遺跡 (19 - 58)

調査地番 大字的場 595 - 31  
調査面積 407㎡  
調査日時 平成 29 年 7 月 26 日  
調査原因 個人住宅  
調査結果 遺構なし



No.31 喜多院境内遺跡 (19 - 110)

調査地番 西小仙波町 1 - 20 - 1  
調査面積 129㎡  
調査日時 平成 29 年 8 月 1 日  
調査原因 個人住宅  
調査結果 遺構なし



No.32 小池町遺跡 (19 - 275)

調査地番 大字北田島 68 - 2 ほか  
調査面積 1,125㎡  
調査日時 平成 29 年 8 月 8 日  
調査原因 建売住宅  
調査結果 遺構なし



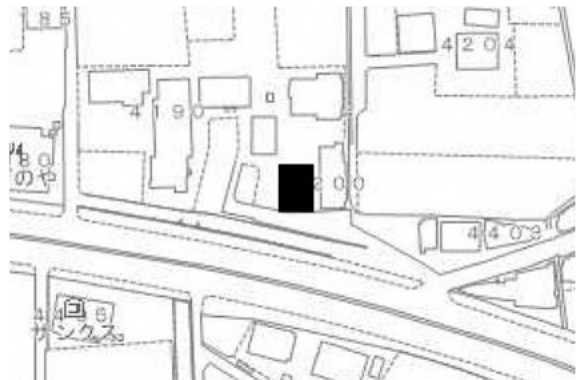
No.33 寺尾貝塚 (19 - 140)

調査地番 大字寺尾 117 - 4  
調査面積 94㎡  
調査日時 平成 29 年 8 月 22 日  
調査原因 建売住宅  
調査結果 遺構あり (古代・住居跡)  
対 応 盛土保存



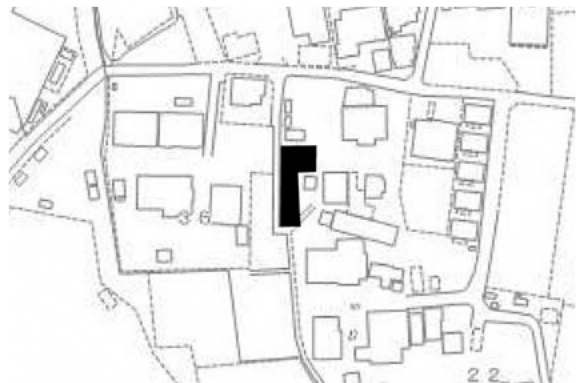
No.34 善仲寺遺跡 (19 - 151)

調査地番 大字古谷上 4200 - 1  
調査面積 52㎡  
調査日時 平成 29 年 8 月 23 日  
調査原因 物置  
調査結果 遺構なし



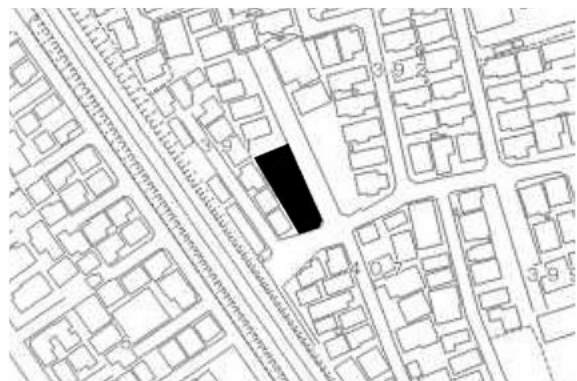
No.35 上野田A遺跡 (19 - 162)

調査地番 上野田町 22 - 8  
調査面積 201㎡  
調査日時 平成 29 年 8 月 24 日  
調査原因 個人住宅  
調査結果 遺構なし



No.36 藤原町遺跡 (19 - 142)

調査地番 大字藤間 391 - 24  
調査面積 334㎡  
調査日時 平成 29 年 8 月 28 日  
調査原因 宅地造成  
調査結果 遺構なし



No.37 大陣遺跡 (19-94)

調査地番 豊田町2-23-12ほか  
調査面積 625㎡  
調査日時 平成29年8月29日  
調査原因 建売住宅  
調査結果 遺構なし



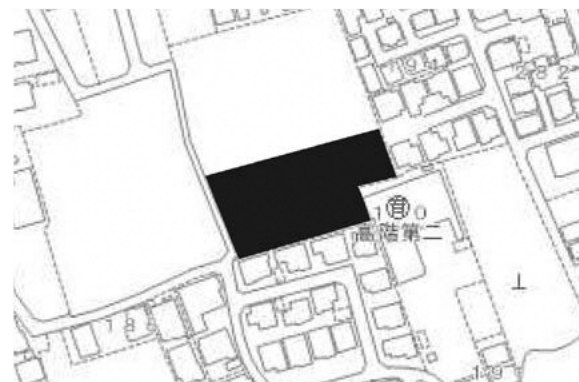
No.38 小仙波4丁目遺跡 (19-115)

調査地番 小仙波町4-2-15  
調査面積 135㎡  
調査日時 平成29年8月31日  
調査原因 賃貸住宅  
調査結果 遺構なし



No.39 寺尾貝塚 (19-140)

調査地番 大字寺尾197ほか  
調査面積 1,347㎡  
調査日時 平成29年9月5・6日  
調査原因 長屋住宅  
調査結果 遺構なし



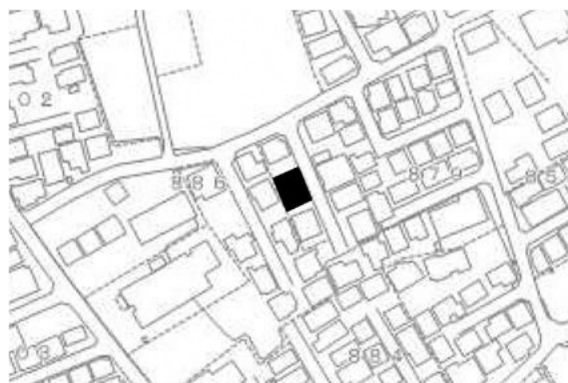
No.40 弁天西遺跡 (19-116)

調査地番 小仙波町5-8-9  
調査面積 274㎡  
調査日時 平成29年9月7日  
調査原因 個人住宅  
調査結果 遺構あり(住居跡など)  
対応 盛土保存



No.41 田成遺跡 (19-141)

調査地番 大字寺尾 883-14  
調査面積 100㎡  
調査日時 平成 29 年 9 月 7 日  
調査原因 個人住宅  
調査結果 遺構なし



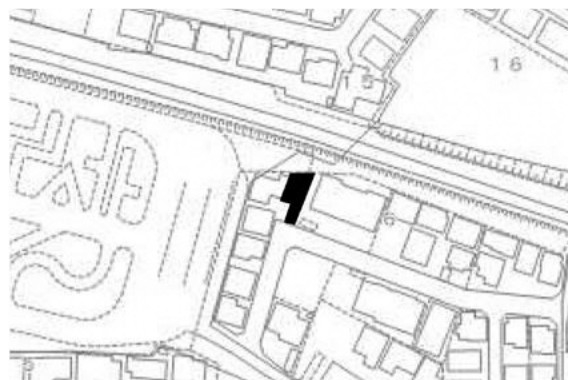
No.42 八幡前・若宮遺跡 (19-59)

調査地番 大字的場 439-40の一部  
調査面積 126㎡  
調査日時 平成 29 年 9 月 8 日  
調査原因 個人住宅  
調査結果 遺構なし



No.43 霞ヶ関遺跡 (19-51)

調査地番 霞ヶ関東 4-6-6  
調査面積 108㎡  
調査日時 平成 29 年 9 月 13 日  
調査原因 建売住宅  
調査結果 遺構あり (古墳・住居跡)  
対 応 霞ヶ関遺跡 24 次



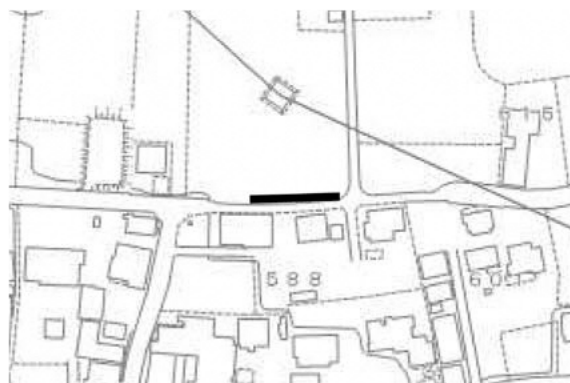
No.44 小仙波 4 丁目遺跡 (19-115)

調査地番 小仙波町 3-18-6  
調査面積 276㎡  
調査日時 平成 29 年 9 月 15 日  
調査原因 個人住宅  
調査結果 遺構なし



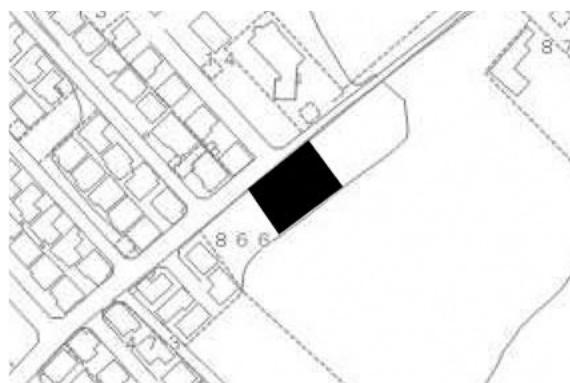
No.45 大道端遺跡 (19-11)

調査地番 大字下小坂 614-1 地先  
調査面積 600㎡  
調査日時 平成 29 年 9 月 22 日  
調査原因 道路  
調査結果 遺構なし



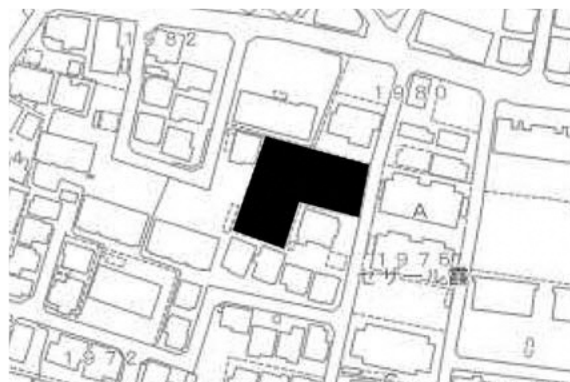
No.46 大塚遺跡 (19-132)

調査地番 大字今福 867-4  
調査面積 9,075㎡  
調査日時 平成 29 年 9 月 26 日  
調査原因 宅地造成  
調査結果 遺構あり (住居跡)  
対応 発掘調査



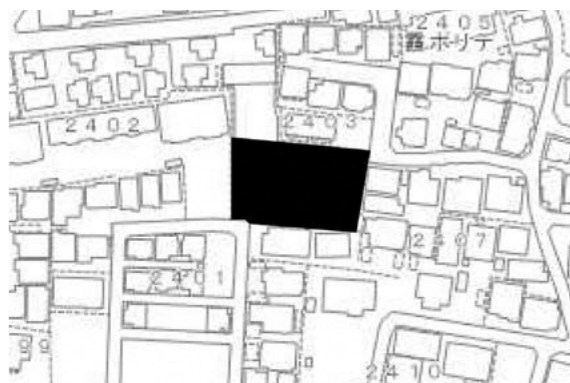
No.47 殿山北遺跡 (19-301)

調査地番 大字的場 1977-6  
調査面積 894㎡  
調査日時 平成 29 年 10 月 11 日  
調査原因 集合住宅  
調査結果 遺構なし



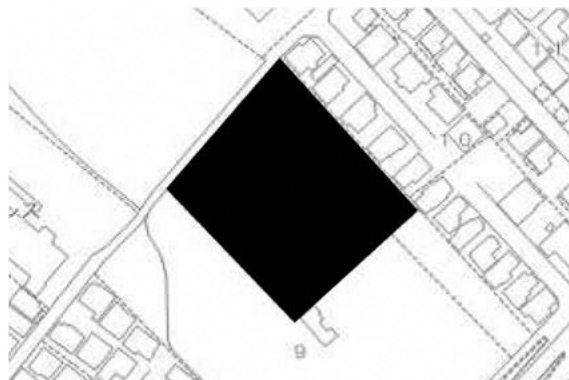
No.48 鎌屋敷遺跡 (19-303)

調査地番 大字的場 2403-1 ほか  
調査面積 602㎡  
調査日時 平成 29 年 10 月 17 日  
調査原因 建売住宅  
調査結果 遺構なし



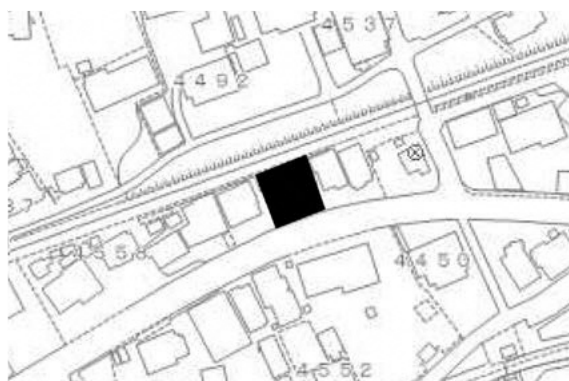
No.49 大塚遺跡 (19-132)

調査地番 中台2-9-1ほか  
調査面積 2,927㎡  
調査日時 平成29年10月19・20日  
調査原因 宅地造成  
調査結果 遺構なし



No.50 本郷遺跡 (19-62)

調査地番 大字笠幡4540-5ほか  
調査面積 308㎡  
調査日時 平成29年11月2日  
調査原因 個人住宅  
調査結果 遺構なし



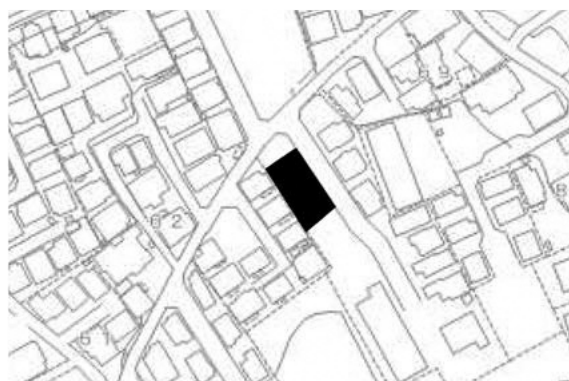
No.51 小仙波4丁目遺跡 (19-115)

調査地番 小仙波町4-8-13  
調査面積 148㎡  
調査日時 平成29年11月14日  
調査原因 個人住宅  
調査結果 遺構なし



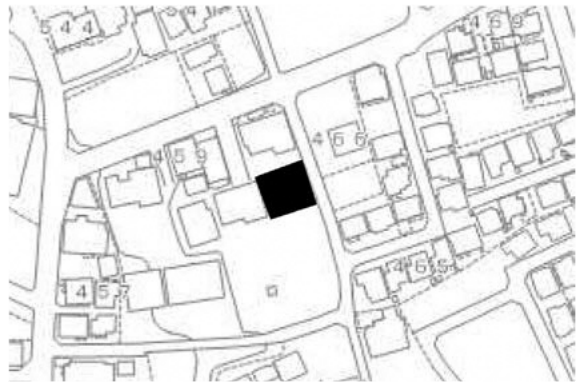
No.52 寺尾貝塚 (19-140)

調査地番 大字寺尾71-13  
調査面積 102㎡  
調査日時 平成29年11月24日  
調査原因 分譲住宅  
調査結果 遺構なし



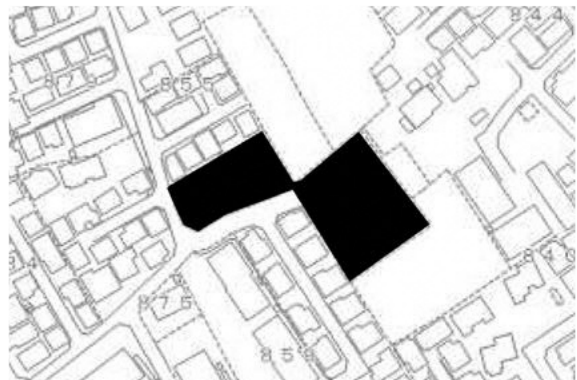
No.53 八幡前・若宮遺跡 (19-59)

調査地番 大字的場 463-1  
調査面積 271㎡  
調査日時 平成 29 年 11 月 27 日  
調査原因 個人住宅  
調査結果 遺構なし



No.54 田成遺跡 (19-141)

調査地番 大字寺尾 857-1ほか  
調査面積 1,674㎡  
調査日時 平成 29 年 11 月 29 日  
調査原因 建売住宅  
調査結果 遺構なし



No.55 上郷遺跡 (19-32)

調査地番 大字鯨井新田 76-1ほか  
調査面積 945㎡  
調査日時 平成 29 年 12 月 7 日  
調査原因 宅地造成  
調査結果 遺構なし



No.56 喜多院境内遺跡 (19-110)

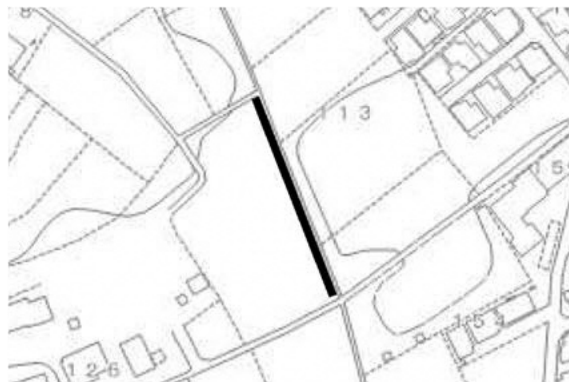
調査地番 小仙波町 1-12-3  
調査面積 103㎡  
調査日時 平成 29 年 12 月 14 日  
調査原因 個人住宅  
調査結果 遺構なし





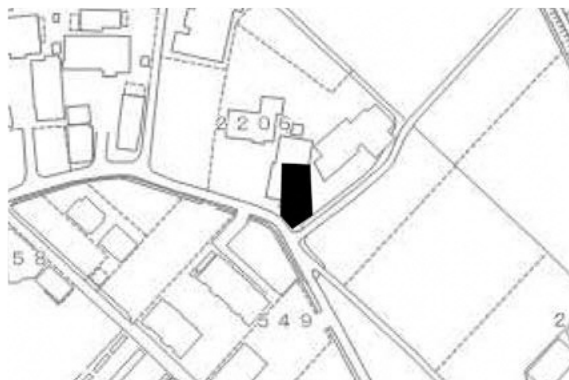
No.57 寺尾貝塚 (19 - 140)

調査地番 大字寺尾 124 - 1 の一部  
調査面積 80㎡  
調査日時 平成 29 年 12 月 15 日  
調査原因 道路  
調査結果 遺構なし



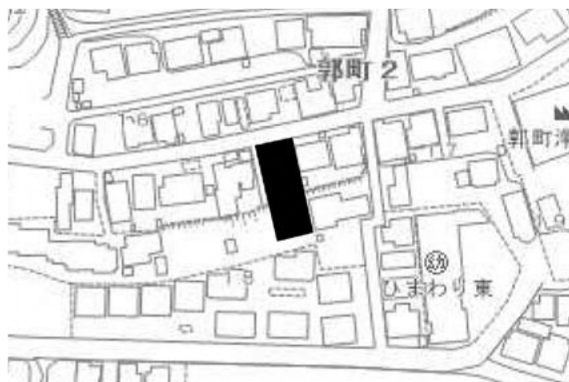
No.58 南田島遺跡 (19 - 325)

調査地番 大字南田島 2207 ほか  
調査面積 49㎡  
調査日時 平成 29 年 12 月 21 日  
調査原因 倉庫  
調査結果 遺構なし



No.59 川越城跡 (19 - 89)

調査地番 郭町 2 - 4 - 9  
調査面積 399㎡  
調査日時 平成 29 年 12 月 22 日  
調査原因 宅地造成  
調査結果 遺構なし



No.60 天王遺跡 (19 - 49)

調査地番 大字上戸 127 - 1 ほか  
調査面積 457㎡  
調査日時 平成 29 年 12 月 27 日  
調査原因 集合住宅  
調査結果 遺構あり (古代・住居跡)  
対 応 盛土保存



No.61 八幡前・若宮遺跡 (19-59)

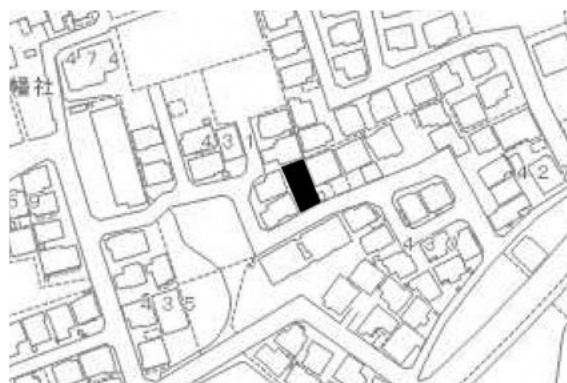
調査地番 大字的場 431-24

調査面積 105㎡

調査日時 平成30年1月10日

調査原因 個人住宅

調査結果 遺構なし



No.62 藤原町遺跡 (19-142)

調査地番 藤原町 14-2

調査面積 404㎡

調査日時 平成30年1月12日

調査原因 集合住宅

調査結果 遺構なし



No.63 寺尾貝塚 (19-140)

調査地番 大字寺尾 613ほか

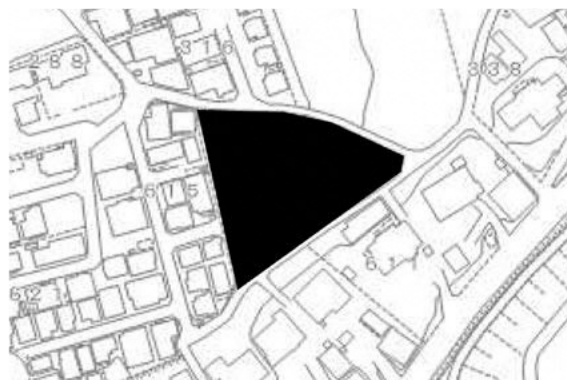
調査面積 1,957㎡

調査日時 平成30年1月16・17日

調査原因 宅地造成

調査結果 遺構あり(縄文・住居)

対応 協議中



No.64 前大町遺跡 (19-96)

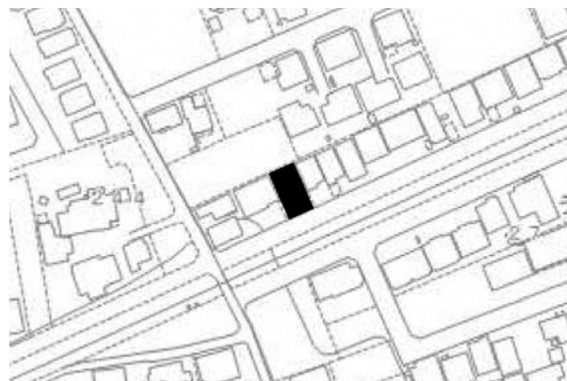
調査地番 的場 1-29-13

調査面積 100㎡

調査日時 平成30年1月18日

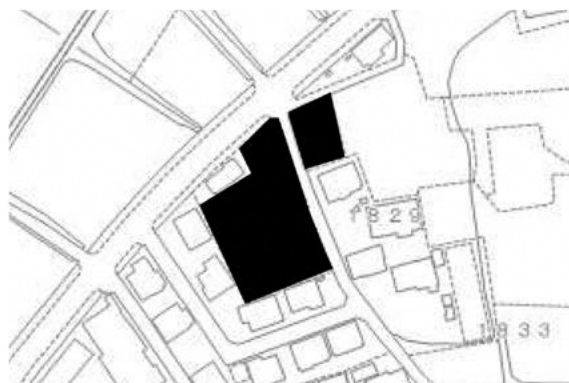
調査原因 個人住宅

調査結果 遺構なし



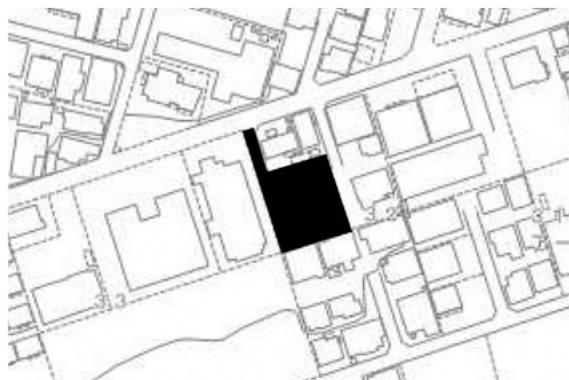
No.65 有泉遺跡 (19-43)

調査地番 大字鯨井 1818 ほか  
調査面積 1,467㎡  
調査日時 平成 30 年 1 月 25 日  
調査原因 宅地造成  
調査結果 遺構なし



No.66 埴遺跡 (19-85)

調査地番 新宿町 6-32-10  
調査面積 681㎡  
調査日時 平成 30 年 1 月 29 日  
調査原因 事務所兼用住宅  
調査結果 遺構なし



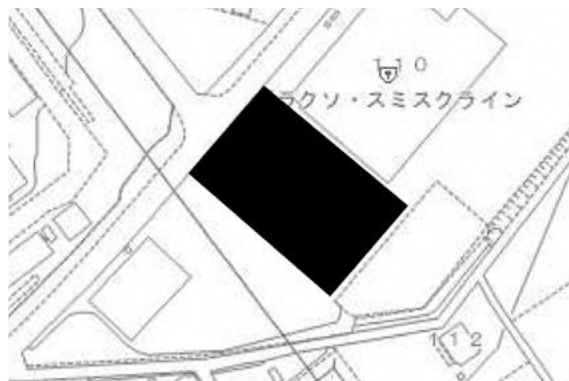
No.67 弁天西遺跡 (19-116)

調査地番 小仙波町 5-7-41 ほか  
調査面積 220㎡  
調査日時 平成 30 年 1 月 30 日  
調査原因 分譲住宅  
調査結果 遺構あり  
対 応 協議中



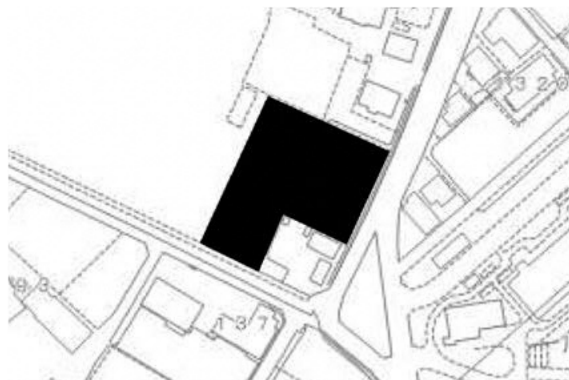
No.68 登戸遺跡 (19-22)

調査地番 大字下小坂 110-1  
調査面積 14,393㎡  
調査日時 平成 30 年 2 月 7 日  
調査原因 物流施設  
調査結果 遺構あり (縄文・包含層)  
対 応 登戸遺跡第 2 次調査



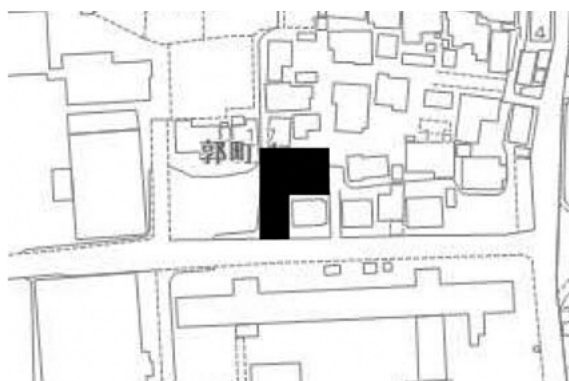
No.69 並木遺跡 (19-326)

調査地番 大字小中居 296-2ほか  
調査面積 704㎡  
調査日時 平成30年2月13日  
調査原因 保育園  
調査結果 遺構なし



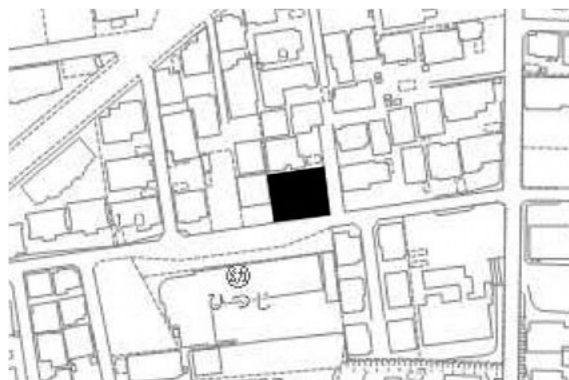
No.70 川越城跡 (19-89)

調査地番 郭町 1-17-4ほか  
調査面積 402㎡  
調査日時 平成30年2月19日  
調査原因 建売住宅  
調査結果 遺構なし



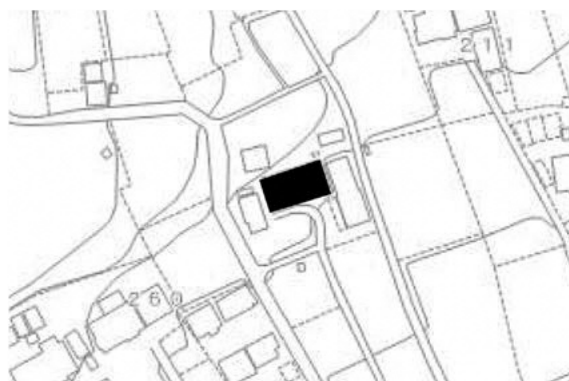
No.71 弁天南遺跡 (19-118)

調査地番 仙波町 3-9-13  
調査面積 260㎡  
調査日時 平成30年2月21日  
調査原因 個人住宅  
調査結果 遺構あり(縄文・住居跡)  
対応 盛土保存



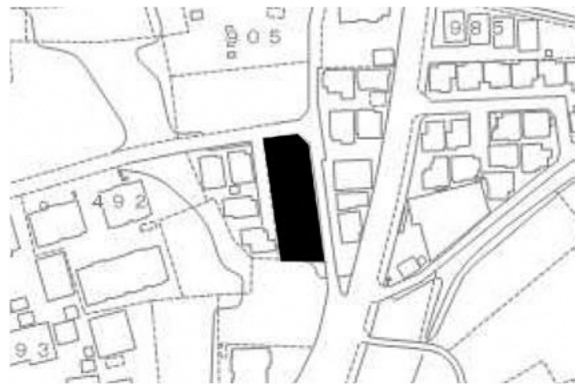
No.72 宮前遺跡 (19-230)

調査地番 下広谷 219-1の一部  
調査面積 66㎡  
調査日時 平成30年2月22日  
調査原因 個人住宅  
調査結果 遺構なし



No.73 八幡前・若宮遺跡 (19-59)

調査地番 大字的場 490-1  
調査面積 485㎡  
調査日時 平成30年2月27日  
調査原因 宅地造成  
調査結果 遺構なし



No.74 川越城跡 (19-89)

調査地番 郭町 2-3-11  
調査面積 347㎡  
調査日時 平成30年2月28日  
調査原因 保育施設  
調査結果 遺構なし



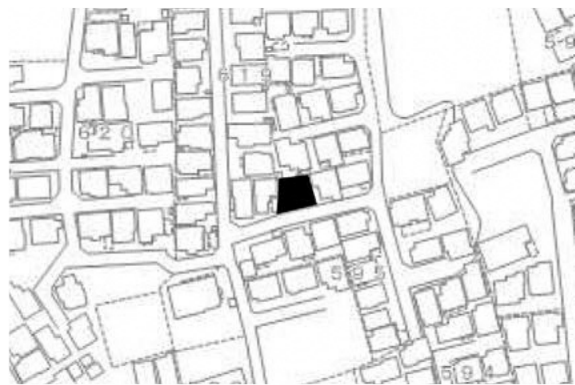
No.75 南田島遺跡 (19-326)

調査地番 大字南田島 2206-1ほか  
調査面積 1,420㎡  
調査日時 平成30年3月2日  
調査原因 集合住宅  
調査結果 遺構なし



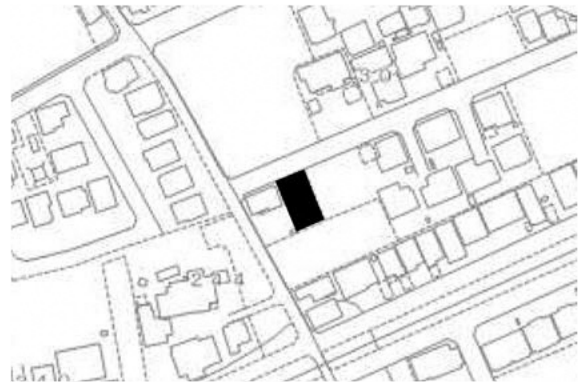
No.76 西若宮遺跡 (19-58)

調査地番 大字的場 618-6  
調査面積 100㎡  
調査日時 平成30年3月8日  
調査原因 個人住宅  
調査結果 遺構なし



No.77 前大町遺跡 (19-96)

調査地番 的場1-29-36ほか  
調査面積 130㎡  
調査日時 平成30年3月19日  
調査原因 建売住宅  
調査結果 遺構なし



No.78 南田島遺跡 (19-326)

調査地番 大字南田島654-3  
調査面積 90㎡  
調査日時 平成30年3月20日  
調査原因 個人住宅  
調査結果 遺構なし



No.79 花見堂遺跡 (19-42)

調査地番 大字鯨井1857-8  
調査面積 307㎡  
調査日時 平成30年3月23日  
調査原因 個人住宅  
調査結果 遺構あり(古代・住居跡)  
対応 盛土保存



No.80 藤原町遺跡 (19-142)

調査地番 藤原町26-11  
調査面積 662㎡  
調査日時 平成30年3月26日  
調査原因 宅地造成  
調査結果 遺構なし



## 10－3 教育委員会の発掘調査

### (1) 豊後山遺跡第2次調査

調査地番 大字的場字豊後山 2426、2427－  
1・3、2428－1・3、2436－  
23、2437－1・2、2438－1、  
霞ヶ関東1－21－10・11  
調査期間 平成29年4月1日～6月9日  
(前年度から継続)  
調査面積 1,029㎡  
調査原因 道路建設  
通知番号 川教文発第1082号 平成29年2月2日



#### 遺跡概要

豊後山遺跡は入間台地の南東側の、入間川と小畔川に挟まれた南西から北東へ伸びる支台（飯能台地）に立地する。南東に入間川を見下ろす台地縁辺より300m程度内陸側に位置する。周囲には南紫野遺跡、走下り西遺跡、東下川原遺跡、霞ヶ関遺跡等が確認されており、古墳時代から平安時代頃の集落が検出されている。なお、隣接する豊後山遺跡第1次調査地点では8世紀後半の住居跡が検出されている。

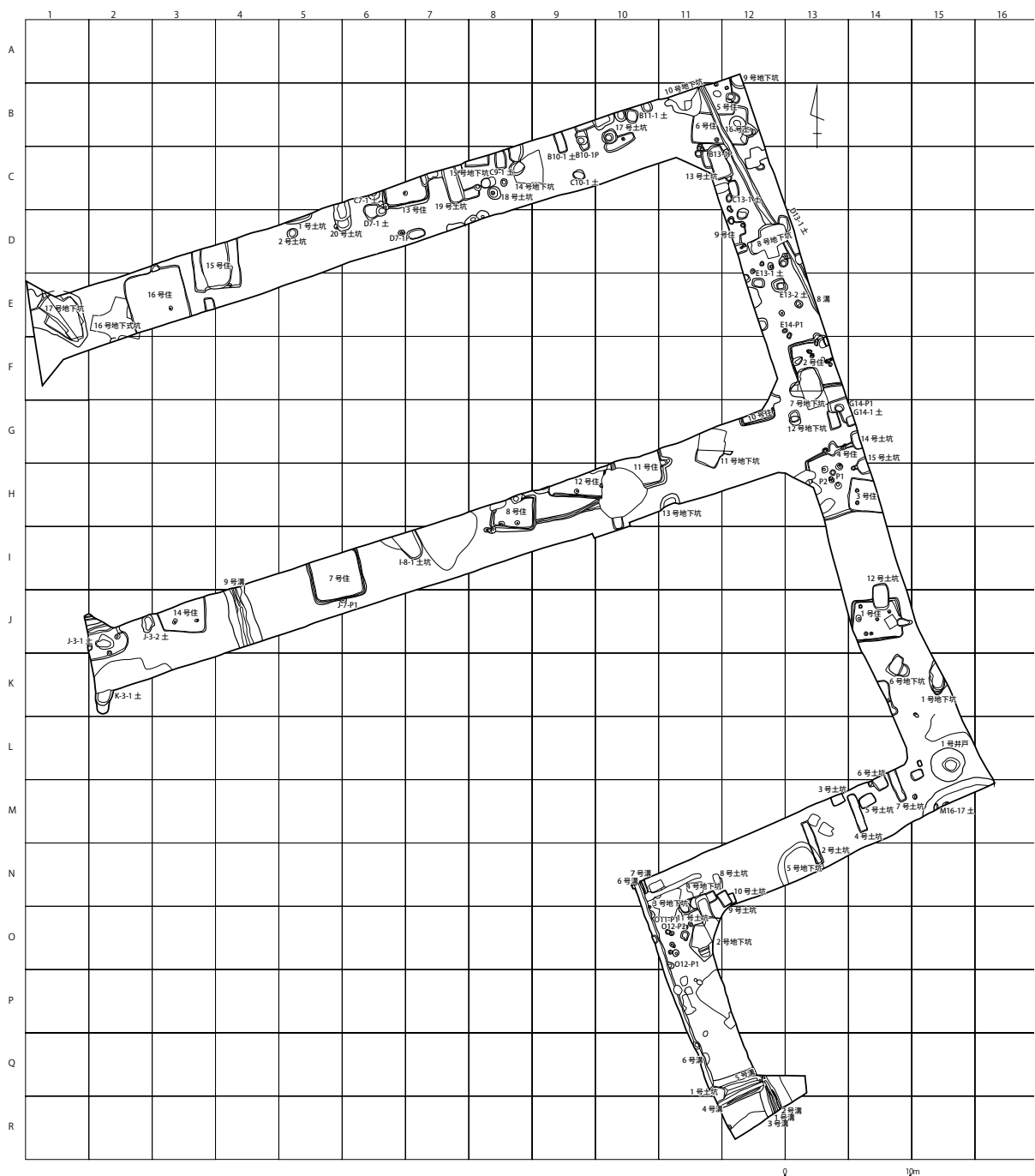
#### 主な検出遺構

- ・ 奈良時代～平安時代 住居跡 16軒
- ・ 中世 地下式坑 17基  
土坑 複数
- ・ 時期不明 土坑、溝跡 複数

古代の住居跡は8世紀中頃から10世紀代にかけてのものであり、調査区北半分で広く検出された。多数の須恵器、土師器が出土した。カマドは北向き（10軒）と、西向き（6軒）とが確認できたが、出土遺物の年代からは西向きの住居跡が新しい傾向にあるようである。2号住居跡はカマドの袖が比較的良好な状態で検出された。5号住居跡は後世の掘削により一部が破壊されていたものの、大量の炭化材が伴う焼失住居であり、原位置に近い状況で多くの遺物が出土した。「入厨」等の墨書土器も複数含まれる。

地下式坑は調査区全域で検出された。後世の流れ込みと考えられる遺物を除くと、竪坑（入口）部分で出土したカワラケ数点の他に出土遺物は皆無であり、遺構の用途に関する物証は得られなかった。土層断面の観察からは、天井の崩落前のある程度埋め戻されたものや、天井崩落後に丁寧に埋め戻されたものなど、幾通りかの埋没過程が想定される。これほど地下式坑が集中する遺跡は周囲では知られておらず、貴重な発見である。

12号土坑からは底面から銅製の鍋が出土した。13号土坑では底面から土器がまとまって出土した。また調査区南側では、遺物が伴わないものの、長さ400cm弱×幅60～70cm×深さ50～80cm程度の土坑が並列して4基検出された。土層観察からは比較的短期間に埋め戻されたものと推測される。これらはいずれも土壌墓の可能性が指摘できる。



豊後山遺跡（第2次調査）全体図

※写真については平成28年度文化財保護年報参照



## (2) 山王塚古墳第4次調査

調査地番	大塚1-21-12
調査期間	平成29年9月4日 ～30年2月1日
調査面積	20㎡
調査原因	史跡内容確認
通知番号	川教文発第418号 平成29年8月1日



### 遺跡の概要

市指定史跡山王塚古墳は市内大東地区、入間川右岸の台地上にある上円下方墳である。上円下方墳は古墳時代終末の7世紀後半から8世紀初めに築造された首長墓で、発掘調査で墳形が確認されたものは全国でも6例しかない。山王塚古墳は下方部一辺63m、上円部径47m、高さ5mでこれらの中でも最大の規模を誇る。

### 調査の概要

石室の構造を把握するため、12号トレンチの北側に14号トレンチを設定し、上面から掘り下げた。その結果、石室の床面まで到達するカクランを確認した。天井や側壁などの石材の抜き取りを目的とした盗掘によるものと考えられる。なお、トレンチ上層からは宋銭や13世紀代の青磁片が出土している。

天井および東側側壁は全て残っていなかったが、礫床と西側の側壁の一部、門柱とその基礎と考えられる石材を確認した。また石室の一部を掘り下げたところ、堀込地業を確認した。

これまでの成果を合わせ考えると、石室は3室構造（玄室・前室・羨道）で、第4次調査のトレンチは羨道のほぼ全体を発掘したものである。

#### ・礫床

15～20cm程度の扁平な河原石を敷き詰める。南側の一部に欠落があるが、カクランによるものと考えられる。(写真③)

#### ・側壁

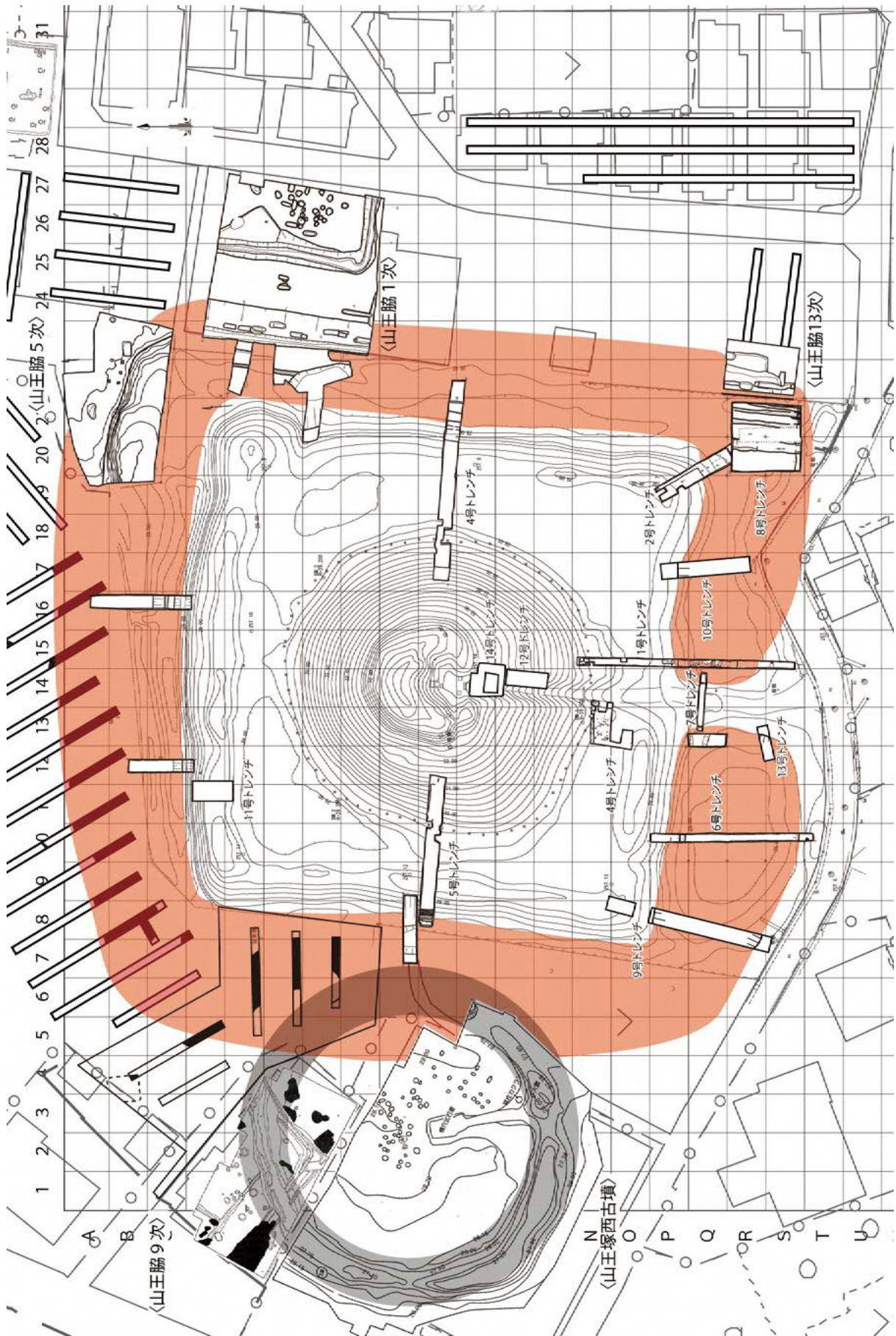
角閃石安山岩の転石を素材とする積み石の側壁である。長径30cm程度の転礫を扁平に加工する。西側は最大で3段残存していた。(写真④)

東側は残存していないが、根石を設置した溝状の痕跡を確認しており、両壁ともに直線的で石室の軸と平行する。石室の幅は190cm。

#### ・門柱石とその基礎

礫床より3cm程度の僅かな間層を挟んで緑泥片岩の板材(140cm×60cm×10cm)2枚が重なるように出土した。(写真①②)

石室西側の礫床および側壁が途切れる部分に70cm×20cmの細隙を検出した(写真③左上)。床面より30cm程度掘り下げたところ、角閃石安山岩の石材が少なくとも3点据え置かれていた(写真⑥)。東側も対になるように3点の角閃石安山岩を確認した(写真③右上、写真⑧)。石材上面には風化した粉状の緑泥片岩が付着しており(写真⑦)、溝状の加工が施されたものもあつ



山王塚古墳平面図

た。緑泥片岩の板材と角閃石安山岩の石材の検出状況を合わせて考え、前者は門柱（羨門）で後者はそれを受ける基礎と判断した。石室の高さ（床と天井の間）は 100cm 程度と推察される。

なお、門柱基礎は内側に傾くように設置されており、門柱石も内側に傾くように建てられたものと考えられる。残存した側壁とその控え積みのローム壁が石室中心に迫り出すことから、石室の側壁は天井に向けてドーム状ないしは台形状にすぼまる持ち送り構造であったと推測される。

#### ・石室直下の地業

トレンチ南東隅にサブトレンチを設定し、床面を掘り下げたところ、礫床からおよそ 180cm 下に地山のローム層（ハードローム）を確認した。地山から床面までの間は、突き固めたローム土を積み上げていた。若干の色調の差異から互層状に分層したが、ほぼ等質なロームであり、混入遺物や砂礫などの夾雑物は無かった。

なお、墳丘東西に設定した 4・5号トレンチ（第2次調査）の成果も踏まえると、以下の通りである（数値は標高）。

- ・ 14号トレンチ 礫敷き床 = 29.75m  
（4・5号トレンチ 旧地表面：黒色土 = 約 28.5m ~ 28.2m）  
（4・5号トレンチ ローム層上面 = 28.3m ~ 27.9m）
- ・ 14号トレンチ 地山のハードローム = 27.95m
- ・ 14号トレンチ最終掘削面 = 27.8m

このことから石室の下は、旧地表面より下に 30 ~ 50cm 程度、黒色土からソフトロームが取り除かれていると考えられ、その上に 180cm のローム土を積み上げて石室を支えたことがわかった。

#### 出土遺物

##### ・フラスコ形提瓶

接合作業を行い、フラスコ形提瓶を少なくとも 2 個体を確認した。他に、接合はしなかったが、フラスコ形提瓶の口縁部や胴部と考えられる小片も数点出土している。

##### ・ガラス小玉

石室床面付近の標高（29.75m）で採取した土をフルイがけしたところ、濃紺のガラス小玉 2 点を検出した。いずれも径 1 cm 程度。

##### ・鉄釘

床面付近から折れた鉄釘が 10 点程度出土した。木質の遺存は確認出来なかった。



写真①石室 南から



写真②石室 西から



写真③石室 板石取り上げ後



写真④側壁（西側）東から



写真⑤側壁東側抜き取り痕 西から



写真⑥門柱痕跡（西側）南から



写真⑦門柱痕跡（西側・緑泥片岩附着）南から



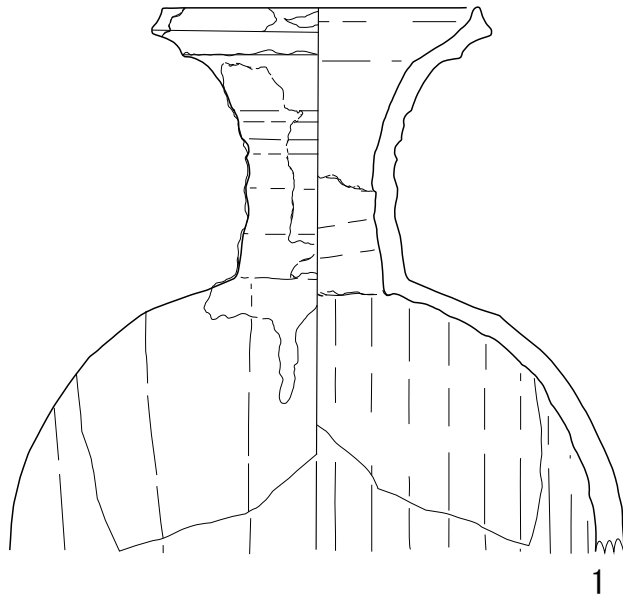
写真⑧門柱痕跡（東側）南から



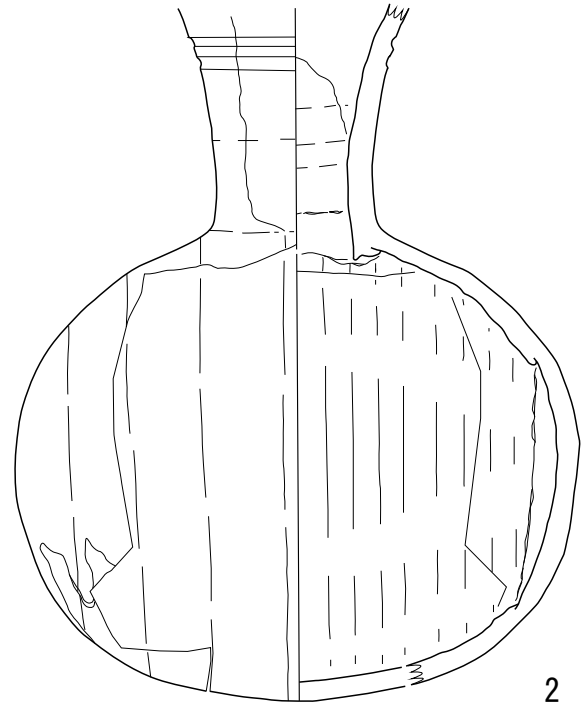
写真⑨門柱痕跡（東側・緑泥片岩附着）南から



写真⑩地業確認



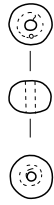
1



2



3

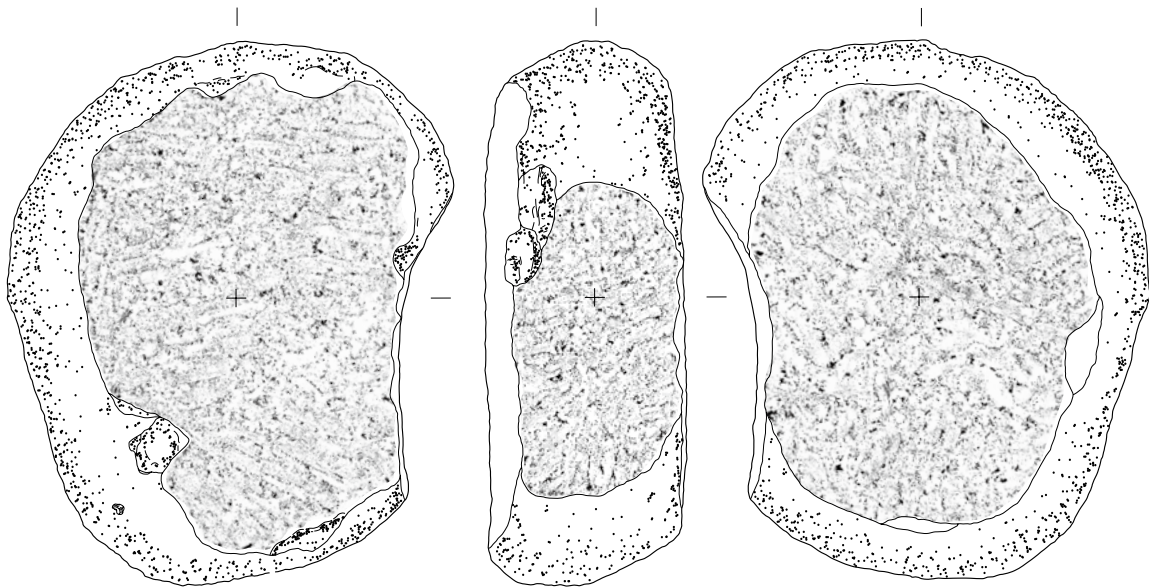


4

1・2 須恵器フラスコ形提瓶

3・4 ガラス小玉

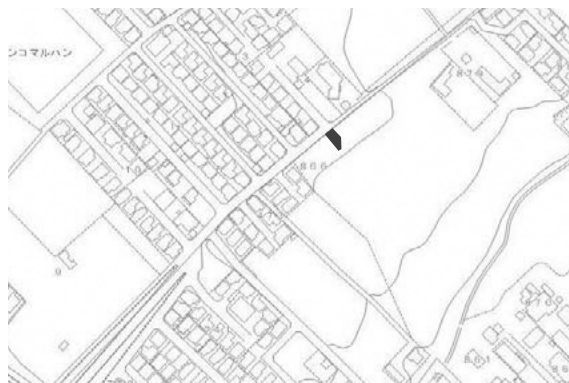
S=1/2



石室出土石材（側壁石材 角閃石安山岩製） S = 1/4

### (3) 大塚遺跡第4次調査

調査地番 大字今福字萩野 867 - 4 他  
調査期間 平成 29 年 10 月 16 ~ 31 日  
調査面積 40㎡  
調査原因 道路建設  
通知番号 川教文発第 646 号  
平成 29 年 10 月 10 日



#### 調査の概要

本遺跡は、市の南部に位置し、北側を久保川、南側を不老川に挟まれた台地上に立地する。

これまでの調査で縄文時代中期後半の集落跡と判明しており、今回の調査においても遺物包含層から該期の土器片が少量出土した。

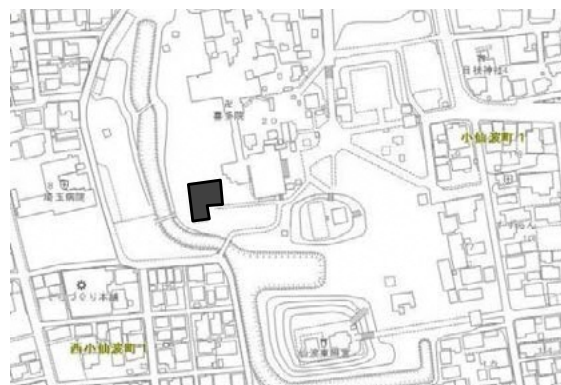


調査区全景（南から）

#### (4) 喜多院境内遺跡第5次調査

##### ―市指定史跡松平大和守家廟所保存整備に伴う発掘調査―

調査地番 小仙波町1-20-8  
(喜多院境内)  
調査期間 平成29年12月5～12日  
調査面積 5㎡  
調査原因 史跡保存整備  
通知番号 川教文発第740号  
平成29年11月15日



#### 調査の概要

市指定史跡松平大和守家廟所は経年劣化等による損朽のため、平成26年度から5か年の計画で保存整備事業を実施している。今年度は、主に昨年度に解体を行った建中院廟（10代直侯）の整備工事を行った。

今回の調査は、次年度に予定している各当主廟前の石燈籠（91基）の整備にあたって、これらが当初の位置を保っているか、どのような基礎構造となっているかを確認するために発掘調査を実施した。また、廟所入口の亀趺碑についても調査に加えた。

廟前に基礎を残し解体された石燈籠91基分すべての調査は難しいため、おおむね各廟前について3～4基の燈籠基礎を通す形でトレンチを6カ所設定した。トレンチの幅は30～40cm、深さは20～40cmである。基礎の構造や深さ、造成土の様子について土層の断ち割りによる確認を行った。

調査の結果、基礎の石は底面が地表下8～10cmと比較的浅い所に据えられており、土層の観察から移動しているか判然としないものが多数であった（KDT1・2・3・6）。ただ、浅い掘り込みながらも硬くしまったローム造成土に据えられているものが認められ、移動していない可能性が高いものもあった（KDT4・5）。亀趺碑（KFT1）は、攪乱土や地表下30cmあまりでローム主体層が検出されるなど、一度掘削されている様子が確認できた。石の目地にセメントが見られることから後世の補修工事が行われているものと思われる。

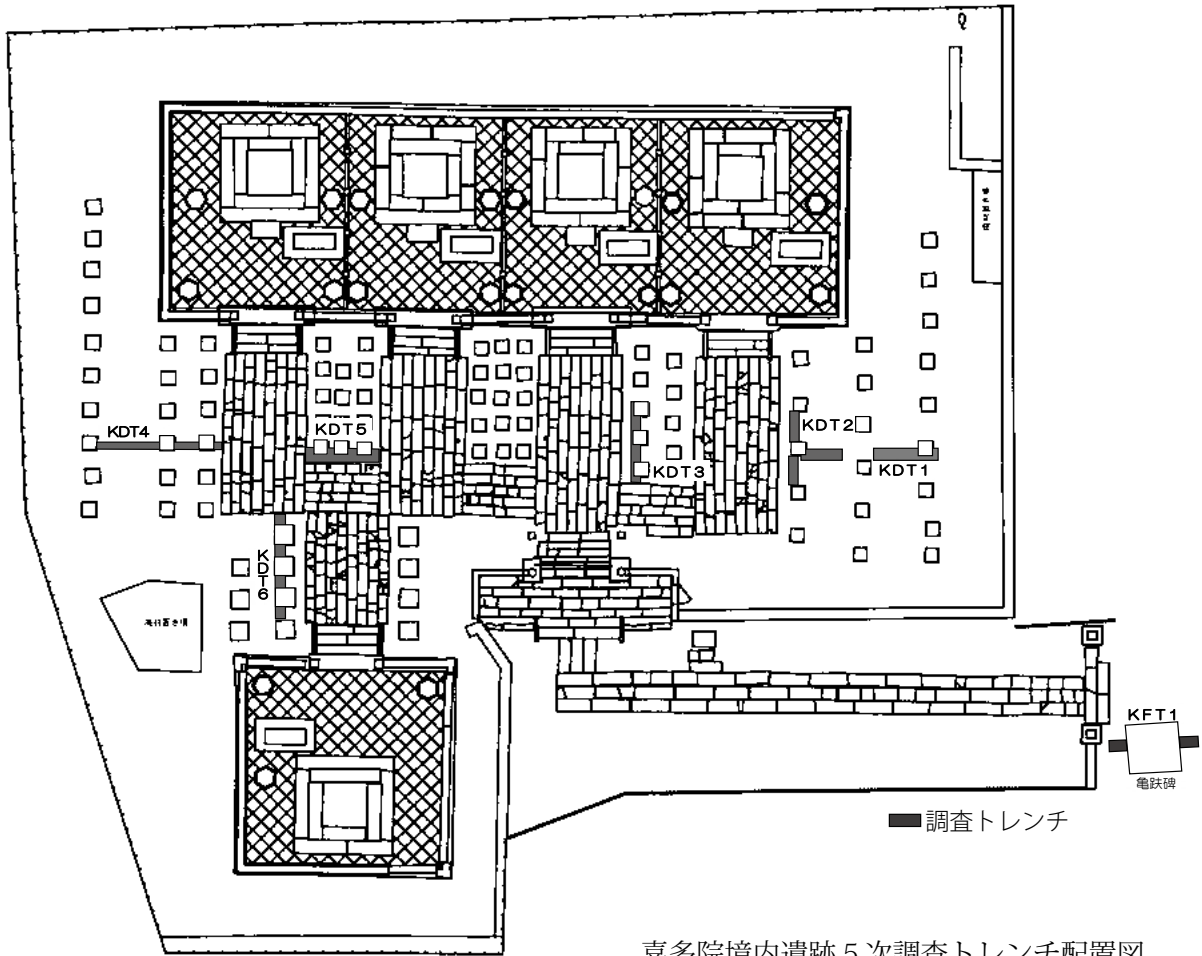
燈籠基礎石の構造については、5～7代までは縦に長方形切石2石の白色凝灰岩質石材、8代は白色の凝灰岩石材は使用されなくなり、縦に切石2石の安山岩質石材（石材不明）が使用されるようになる。10代は、燈籠が大きくなるため、基礎石が縦に切石3石（石材不明）となることが判明した。



家臣奉献石燈籠現況全景（西から）



家臣奉献石燈籠現況全景（東から）



喜多院境内遺跡 5次調査トレンチ配置図



試掘トレンチ (KDT 1) 全景 (東から)



試掘トレンチ (KDT 2) 全景 (南西から)



試掘トレンチ (KDT 4) 全景 (東から)



試掘トレンチ (KDT 5) 全景 (南から)



## 10－4 遺跡調査会の発掘調査

### (1) 霞ヶ関遺跡第24次調査

調査地番	霞ヶ関東4－6－6
調査期間	平成29年11月20日～12月26日
調査面積	52㎡
調査原因	建売住宅建設
通知番号	川教文発第690号 平成29年10月25日



#### 調査の概要

調査場所は、霞ヶ関遺跡の南端に当たる。調査は、現地表面から遺構検出面までが80～85cmと深いために、一度に表土剥ぎをすることができず、3回に分けて実施した。平成29年9月13日に実施した試掘調査の結果、竪穴住居跡1軒がやや南寄りに検出されていたため、まず、北側部分（A区）の表土剥ぎ及び調査を実施した。A区の調査終了後、同区の埋戻し及び南側西半分（B区）の表土剥ぎを行い、検出された竪穴住居跡1軒の約半分と土坑3基の調査を実施した。

B区の調査終了後、同区の埋戻し及び南側東半分（C区）の表土剥ぎを行い、検出された竪穴住居跡1軒の約半分と土坑1基の調査を実施した。C区の調査終了後、同区の埋戻しを行い、全ての調査を終了した。

検出された遺構は、古代の竪穴住居跡1軒と時期不明の土坑4基であり、これらの遺構に伴い、遺物が出土した。

竪穴住居跡は、1辺約5mの方形で、東壁の中央付近にカマドが検出された。カマドの残存状況は良好ではなかったが、袖の部分が検出され、構築材として灰色粘質土が使われていた。またカマドの中央からは、真っ赤に焼けた火床面が検出され、縁を欠いて伏せられた状態の土師器甕が出土した。

また、住居跡の壁際には、細めの周溝がめぐり、床面の中央寄りの四隅に支柱穴が検出された。明確な貼床は認められなかった。出土した遺物は、土師器坏・甕・壺、須恵器蓋であり、中には完形のものや全体形のわかる大きな破片なども出土した。これらの出土した土器の形態的特徴から、奈良時代初め頃のものとして推定される。

土坑は、4基（1～4号）とも軸方向を同じくし、整然と並んで検出された。竪穴住居跡の北側と重複しており、これよりも新しい。幅は0.9～1mの長方形であり、長さは4号で約2mである。1・2・4号の覆土は、地山層由来の黄褐色ロームブロックを多量に含み、一度に埋められたような状況である。3号は、1号と重複し、これよりも古く、黒褐色の覆土であり他と異なっている。土坑内での時期差があるものと推定される。遺物は、古代の土師器や須恵器片が少量出土したが、かわらけ片と思われるものも出土していることから、土師器や須恵器は、住居跡からの混入と考えられ、土坑の時期は中世の可能性はある。

今回は、主に竪穴住居跡1軒分の極めて限定的な調査であったものの、住居跡の時期を示す完形や全形のわかる大きな破片が複数出土した。



1号住居跡完掘状況（B区・南西から）



1号住居跡完掘状況（C区・南西から）



1号住居跡遺物出土状況（C区）

# 11 伝統的建造物群保存地区保存整備事業

蔵造りと時の鐘に代表される町並みは川越のシンボルゾーンであり、かけがえのない文化遺産である。蔵造り町家以外にも各時代を代表する多様な建築様式の建造物が伝えられており、我が国の都市建築の発展をうかがわせる貴重な町並みである。

## 11－1 伝統的建造物群保存地区制度

「伝統的建造物群保存地区制度」とは、失われゆく歴史的な町並みを大切に後世に伝えていくための文化財制度で、昭和 50 年の文化財保護法の改正により創設されたものである。

「伝統的建造物群」とは、周囲の環境と一体をなして歴史的風致を形成している伝統的な建造物群で価値が高いものをいい、またこれと一体をなして価値を形成している環境を保存するための地区を「伝統的建造物群保存地区」という。

伝統的建造物群保存地区で我が国にとって価値が特に高いものは、「重要伝統的建造物群保存地区」として文部科学大臣に選定される。



## 11－2 地区概要

1. 種 別 重要伝統的建造物群保存地区
2. 名 称 川越市川越伝統的建造物群保存地区
3. 所 在 地 幸町の全部、元町 1 丁目、元町 2 丁目及び仲町の各一部
4. 面 積 約 7.8ha
5. 条例制定年月日 平成 10 年 6 月 23 日（条例第 19 号）
6. 都市計画決定年月日 平成 11 年 4 月 9 日
7. 保存計画決定年月日 平成 11 年 4 月 9 日
8. 選 定 年 月 日 平成 11 年 12 月 1 日  
(文部省告示第 197 号)
9. 選 定 理 由 重要伝統的建造物群保存地区選定基準「(1) 伝統的建造物群が全体として意匠的に優秀なもの」による。



■川越市川越伝統的建造物群保存地区の範囲

### 11－3 地区の特性

川越の伝統的な町並みは、間口が狭く奥行きが長い敷地割のため、表は軒を連ねながらも奥には中庭を取り、採光や通風に対する工夫がみられるなど、商業地としての賑わいの演出と快適な住環境を両立させる知恵が活かされている。伝統的建造物群の基調をなす「蔵造り町家」は、明治26年の大火を契機として生まれたものである。まちの復興にあたり川越商人は、舟運により交流のあった江戸に多く建てられていた防火建築の土蔵造りを採用したと言われている。

町並みを構成する建造物としては、蔵造り町家群が最も特徴的であるが、真壁造り町家、大正昭和初期の洋風町家も分布する。また、町家以外の伝統的建造物には和風住宅、洋風住宅、並びに埼玉りそな銀行川越支店（旧第八十五銀行本店本館）等の近代洋風建築、寺社、時の鐘等の多様な建築様式の建造物が伝えられており、我が国の都市建築の発展をうかがわせる貴重な町並みである。

### 11－4 平成29年度の主な事業の概要

#### (1) 保存事業

伝統的建造物の修理5件、応急修理6件、景観事業1件、合計12件の保存事業に補助金を交付した。

#### (2) 保存対策関連調査等

勝治家住宅主屋保存対策調査を実施した。

#### (3) 保存活動事業

川越町並み委員会が行う、伝建地区の保存活動事業に補助金を交付した。

### 11－5 現状変更行為件数

建築物	新築	増築	改築	移転	除却	修繕	模様替え	色彩変更	その他	小計
	3	0	0	0	2	15	3	0	0	23
工作物	新築	増築	改築	移転	除却	修繕	模様替え	色彩変更	その他	小計
	0	0	0	0	1	3	0	0	0	4
土地の形質の変更										0
木竹の伐採										2
土石の類の採取										0
その他（看板設置・修繕等）										15
合 計										44

(一つの申請で複数の行為内容を申請している場合があるため、許可件数としては37件。)

## 11 - 6 保存事業

### (1) 保存事業補助金交付額

伝統的建造物の修理5件、応急修理6件、景観事業1件、合計12件の保存事業に、補助金合計31,038,000円を交付した。

### (2) 保存事業の内容

事業種別	対象物件		事業内容
修 理	①	長谷川家住宅土蔵	屋根葺き替え、軸組及び外壁の修理等（3ヵ年継続事業の1年目）
	②	星野・田中両家住宅店棟	瓦の葺き替え、小屋組及び屋根下地の修理等
	③	金大土蔵	瓦の葺き替え、及び屋根下地の修理等
	④	宮岡家住宅店蔵及び土蔵	店蔵：屋根漆喰及び外壁の修理 土蔵：けらば漆喰及び水切りの修理
	⑤	市ノ川家住宅主屋	瓦の葺き替え、及び屋根下地の修理等
応急修理	⑥	山屋渡廊下	地盤沈下にともなう床組等の修理
	⑦	星野・田中両家住宅店棟	経年劣化により剥離した外壁仕上げ及び一部外壁下地の修理
	⑧	宮岡家住宅店蔵	経年劣化により傷んだ影盛の漆喰仕上げの修理
	⑨	山崎家住宅二番蔵	雪害及び台風等により傷んだ雨樋の修理
	⑩	滝島家住宅店棟及び住居棟	経年劣化により傷んだ谷樋の板金修理、及び棟瓦の修理
	⑪	宮岡家住宅店蔵	経年劣化により傷んだ破風の応急処置
景 観	⑫	中島家店舗併用住宅	町並みに調和した店舗併用住宅の新築

修理事業

①長谷川家住宅土蔵



修 理 前



第1期工事完了後

②星野・田中両家住宅店棟



修 理 前



修 理 後

③金大土蔵



修 理 前



修 理 後

④宮岡家住宅店蔵及び土蔵



修 理 前



修 理 後

④宮岡家住宅店蔵及び土蔵



修 理 前



修 理 後

⑤市ノ川家住宅主屋



修 理 前



修 理 後

景観事業

⑫中島家店舗併用住宅



## 11 - 7 保存活動事業

川越町並み委員会が行う、伝建地区の保存活動事業に対して、300,000 円の補助金を交付した。  
町並み委員会 30 周年記念誌を作成し、11 月 10 日に記念報告会が開催された。

## 11 - 8 伝統的建造物の特定状況

○平成 29 年 12 月 26 日告示（2 件）

勝冶家家住宅主屋

（134 - 06401）

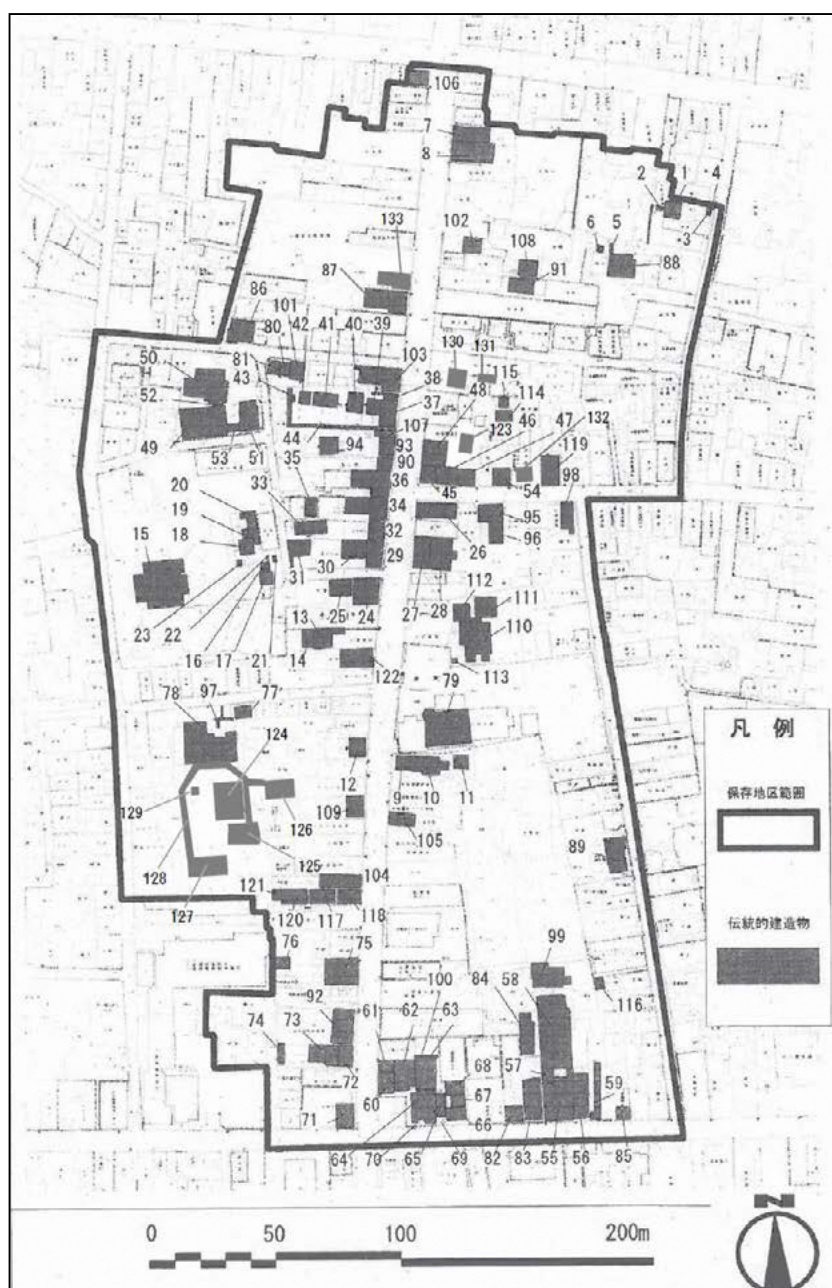


齊家住宅主屋

（135 - 06501）



伝統的建造物の分布





## 11－9 蔵造り資料館耐震化事業

蔵造り資料館は、明治26年（1893）の川越大火の直後に煙草商小山文蔵氏により再建された店蔵を中心に、店蔵に隣接した土蔵造りの添屋、背後に木造の住居棟のほか3棟の土蔵、外便所等により構成されている。

これまでに、住居棟の半解体修理、二番蔵の構造補強をはじめ、外壁の修繕等が行われているが、経年による外壁等の劣化、雨水の流入による軸部の腐蝕、建物の不同沈下が進行している。

そのため、伝統的建造物の維持管理、また公開活用に資する建造物等の安全性の観点から、文化庁の「文化財建造物等を活用した地域活性化事業」を活用し、耐震化事業を実施中である。

### 平成29年度 耐震化工事（第1期）の着工

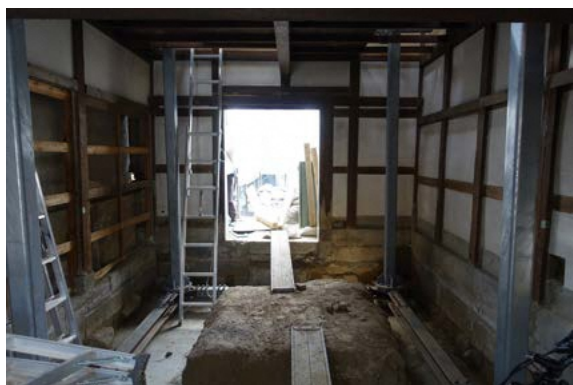
平成26年度の耐震診断調査、平成27年度の耐震化工事実施設計を受け、平成29年度は店蔵・添屋・住居棟・一番蔵の耐震化工事を開始した。添屋の鉄骨建方、店蔵・添屋の屋根解体までを行った。第1期工事は平成31年3月頃に終了する予定である。



蔵造り資料館外観



店蔵 屋根解体状況



添屋 鉄骨建方



住居棟 床解体状況



一番蔵 仮設

## 12 普及・啓発事業

### 12-1 職員の派遣

平成29年度は24件の依頼を受けて職員を派遣した。

	実施日	講義内容	講義場所	依頼元	対象	派遣職員
1	4月9日	山王塚古墳の発掘調査について	箆屋	大塚新田氏子会	30名	岡田
2	6月10日	高階地区の歴史②	高階公民館	青少年を育てる高階地区会議	100名	天ヶ嶋
3	6月25日	ユネスコ無形文化遺産としての川越氷川祭の山車行事	ウエスタ川越	文化芸術振興課	60名	田中
4	7月22日	川越城本丸御殿修理工事について	江戸東京博物館	日本城郭史学会	50名	天ヶ嶋
5	7月30日	川越市山王塚古墳	埼玉県立さきたま史跡の博物館	埼玉考古学会	80名	岡田
6	8月3日	川越氷川祭の山車行事	埼玉県立歴史と民俗の博物館	埼玉県文化財保護協会	100名	田中
7	8月29日	山王塚古墳とその時代	南公民館	南公民館	60名	岡田
8	8月30日	ユネスコ無形文化遺産川越まつり	ウエスタ川越	彩の国生きがい大学	140名	石田
9	9月6日	川越まつりについて	本庁舎	観光課	80名	石田
10	10月11日	鉄道の発達と川越	芳野公民館	芳野公民館	30名	天ヶ嶋
11	11月16日	川越唐棧概略	博物館	文化芸術振興課	50名	石田
12	11月21日	川越の古墳について	プリンスホテル	川越ロータリークラブ	300名	岡田
13	11月22日	ユネスコ無形文化遺産に登録された川越まつり	南公民館	南公民館	80名	田中
14	11月25日	川越市山王塚古墳の調査と問題点	大東文化大学東松山校舎	大東文化大学	25名	岡田
15	12月9日	松平大和守家廟所保存事業現地見学会	松平大和守家廟所	喜多院	70名	山田
16	12月20日	発掘調査で明らかになったこと	川鶴公民館	川鶴公民館	40名	藤田
17	1月11日	高階の歴史	高階公民館	高階公民館	140名	天ヶ嶋
18	2月1日	「流鏝馬」について	上戸小学校	上戸小学校	60名	岡田 杉浦
19	2月2日	南大塚で進められている古墳の発掘について	中正屋	小江戸飛雁会	25名	岡田
20	2月14日	山王塚古墳について	大東南公民館	大東南公民館	24名	藤田
21	2月17日	川越市豊後山遺跡2次調査	博物館	中世を歩く会	80名	藤田
22	2月21日	山王塚古墳見学会	山王塚古墳	大東南公民館	24名	藤田

	実施日	講義内容	講義場所	依頼元	対象	派遣職員
23	3月6日	昔・むかしの散歩道	北公民館	北公民館	20名	天ヶ嶋
24	3月23日	松平大和守家廟所現地見学会	松平大和守家廟所	博物館	12名	山田

## 12-2 刊行物

パンフレット及び書籍を発行し、文化財の保護普及の一助としている。平成29年度は、ユネスコ無形文化遺産登録に伴い「川越氷川祭の山車行事」の多言語パンフレットの作成、時の鐘耐震化工事完了に伴い「時の鐘耐震化工事報告書」の刊行及びパンフレット改訂を行った。



### パンフレット

川越建物細見	川越城中ノ門堀跡
川越市指定文化財 時の鐘	市指定文化財 永島家住宅（旧武家屋敷）
国指定史跡 河越館跡	川越の祭りと芸能
国指定史跡河越館跡史跡公園	ユネスコ無形文化遺産・国指定重要無形民俗文化財
市指定文化財 旧山崎家別邸	川越氷川祭の山車行事（日本語及び9か国語版）

### 書籍・地図（有償頒布）

川越市の文化財	川越氷川祭りの山車行事報告書
ハンドブック川越の歴史	川越の民俗調査報告書第一集 福原・南古谷地区の民俗
川越の伝説	川越の民俗調査報告書第二集 山田地区の民俗
続・川越の伝説	川越の神社建築
川越の人物誌 第1集	川越の寺院建築
川越の人物誌 第2集	川越市指定文化財 旧山崎家別邸調査報告書
川越の人物誌 第3集【女性編】	元町二丁目井上家文書目録
川越市文化財散策マップ	川越市山田地区民具調査報告書 鹿倉家の民具
	時の鐘耐震化工事報告書

## 12－3 防火訓練

1. 日 時 平成 30 年 1 月 26 日（金） ※大雪の影響により中止。
2. 会 場 喜多院・東照宮・日枝神社
3. 主 催 川越市教育委員会・川越地区消防組合  
喜多院・東照宮・日枝神社・川越市文化財保護協会
4. 内 容 通報、消火、重要物件搬出、避難などの総合訓練  
貯水槽、消火器などの点検・整備及び試験運用
5. 動 員 数 参加人員 115 名  
出動車両 10 台（梯子車 2 台、化学車 1 台ほか）
6. 概 要

昭和 24 年 1 月 26 日に法隆寺金堂壁画が火災によって焼損したことから、昭和 30 年に 1 月 26 日が「文化財防火デー」と定められ、消防庁と共同で貴重な文化財を火災から守るための取り組みを行っている。

本市では、昭和 34 年に喜多院客殿・書院に防災設備が設置されたのを契機に文化財防火訓練が開始され、毎年同時期に開催している。喜多院周辺は、重要文化財建造物 3 件 13 棟を始め、市内でも最も多くの文化財が集中している地域である。また、各文化財の防火設備等も整備されており、防火訓練を行なうには最適といえる。

平成 29 年度は、1 月 22 日の大雪による積雪や路面凍結が前日 25 日になっても解消せず、消防局等と協議し中止とした。中止にあたっては、市ホームページ等への掲載、現地に中止看板を設置して周知したほか、当日は職員が現場で待機して地元関係者、見学希望者の対応をした。



多宝塔前から慈恵堂方向の積雪状況（前日）

## 12 - 4 最新遺跡発表会 2017

1. 日 時 平成 29 年 6 月 17 日 (土) 午後 1 時 30 分～ 3 時 30 分
2. 会 場 市立博物館 視聴覚ホール
3. 対 象 一般
4. 参加人数 70 人
5. 発表遺跡 ①考古学マメ講座「発掘調査って…？」 天ヶ嶋 岳  
②山王塚古墳 (第 3 次調査) 岡田 賢治  
③豊後山遺跡 (第 2 次調査) 藤田 健一  
④喜多院境内遺跡 (第 4 次調査) 山田 雄正
6. 概 要

毎年川越市で実施している発掘調査の成果について、いち早く市民に公開することを目的とする活用事業である。今回は考古学の基礎知識についての講座を行い、その後平成 28 年度に実施した発掘調査の内の上記 3 遺跡の発掘調査成果について、パワーポイントを用いて各調査担当者が報告を行った。また、山王塚古墳、豊後山遺跡、喜多院境内遺跡の出土遺物を視聴覚ホール外のロビーに展示し、解説を行った。



説明



会場の様子



説明



展示物

## 12 - 5 山王塚古墳発掘調査見学会

1. 日 時 平成 29 年 9 月 30 日 (土) 午前 10 ~ 11 時・午後 2 ~ 3 時
2. 会 場 市指定史跡山王塚古墳 大塚 1 丁目 21 他
3. 対 象 一般
4. 参加人数 698 人 (午前 410 人・午後 288 人)
5. 概 要

山王塚古墳の発掘の成果を広く市民に周知するため、見学会を行った。

まず、山王塚古墳西側の広場でこれまでの調査概要、時代背景等について全体説明を行った後、下方部西側・東側、墳頂部で文化財保護課職員が立って山王塚古墳の見所について解説した。また、現場プレハブ前にブースを設け、出土品、石室の石材等を展示した。



見学会全景



受付



墳頂部での説明



下方部での説明

## 13 川越市の文化財数

平成 29 年度は、市指定文化財の工芸品 2 件が県指定文化財に指定された。

(平成 30 年 3 月 31 日現在)

種別	種類	国指定等	県指定	市指定	合計
有形文化財	建造物	4	9	52	65
	絵画	2	2	1	5
	彫刻		2	12	14
	工芸品	3	5 (+2)	18 (-2)	26
	書跡・典籍・古文書	1	7	28	36
	考古資料		1	7	8
	歴史資料		1	6	7
民俗文化財	有形民俗文化財		1	20	21
	無形民俗文化財	1	6	11	18
記念物	史跡	1	3	32	36
	天然記念物		1	8	9
	旧跡（県のみ）		4		4
指定文化財 計		12	42 (+2)	195 (-2)	249
重要伝統的建造物群保存地区		1			
登録文化財	有形文化財	12			
	記念物	1			
重要美術品		2			
合計		28	42 (+2)	195 (-2)	265

( ) は対前年比件数

川越市文化財保護年報

平成 29 年度

平成 30 年 10 月 1 日

発 行 川越市教育委員会文化財保護課  
〒 350 - 8601  
川越市元町 1 丁目 3 番地 1  
TEL 049 - 224 - 6097 (直通)

印 刷 有限会社 川田写植





### 文化財愛護シンボルマーク

このシンボルマークは、ひろげた両手の手のひらのパターンによって、日本建築の重要な要素である斗拱(組みもの)のイメージを表し、これを三つ重ねることにより、文化財という民族の遺産を過去・現在・未来にわたり永遠に伝承してゆくという愛護精神を象徴したものです。